

派遣専門家オリエンテーション資料

トリニダッド・トバゴ

Republic of Trinidad and Tobago

任国情報

1996年

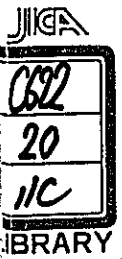


国際協力事業団

国際協力総合研修所

トリニダッド・トバゴ

国際協力総合研修所



はしがき

この任国情報は国際協力のために赴任される専門家およびJICA役職員等に、任国での生活上必要な事項についての情報を提供するものです。

本書の刊行にあたっては当該国に派遣中の専門家等JICA関係者の皆様より多大な御協力を得ました。また、外務省、在外公館、その他関係機関の御好意により、貴重な資料の一部を利用させていただきました。

今後も、本書の内容を一層充実させ、常に、新しい情報の提供に努めたいと考えております。

本書が国際協力の分野で活躍される方々の参考となれば幸いです。

平成8年3月
国際協力事業団
国際協力総合研修所長



1129213 {3}

目次

I 概 況	1
II 生活事情	6
1. 食生活	6
2. 衣 料	12
3. 住 宅	14
4. 医 療	18
5. 教 育	22
6. 家庭の使用人	25
7. 交通事情	26
8. 通 信	30
9. マスコミ	32
10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ	34
11. その他のサービス	41
12. 観 光	42
13. 治安、緊急時の心得	44
14. 出入国手続および帰国手続	45
15. 私財の輸送、引き取り、購入	48
16. 社 交	52
17. 任国官公庁	54
18. 在外日本関係機関など	55
19. 地方都市	56

I 概 況

表-1：トリニダッド・トバゴ概況

a) 正式国名	(和文) トリニダッド・トバゴ共和国 (英文) Republic of Trinidad and Tobago
b) 独立年月日 旧宗主国	1962年8月31日 英国
c) 政 体	立憲共和制
d) 元首の名称	ノア・モハメド・ハッサナリ (Noor Muhammad Hassanali) 大統領 (1987年3月就任)
e) 面 積	5,128 千平方キロメートル
f) 首 都	ポート・オブ・スペイン
g) 総 人 口	127.1 万人 (1995年7月推計)
h) 民 族 等	アフリカ系黒人、インド人、混血、白人、その他中国人等
i) 公 用 語	英語
j) 宗 教	カトリック、英国国教、ヒンズー教、イスラム教
k) 暦	<日本との時差> -13時間 <祝祭日> (1996年) (注2) 1月1日 新年 2月19～20日 カーニバル * 2月21日 断食(ラマダン)明け大祭 4月5～8日 イースター 5月27日 聖霊降臨祭の翌月曜日 6月6日 キリスト聖体祭 6月19日 労働者の日 8月1日 解放記念日 8月31日 独立記念日 9月24日 共和制記念日 * 10月 Divali 12月25～26日 クリスマス (*は毎年日が変わる祝祭日)

出所 (注1) World Development Report 1995 The World Bank

(注2) The Europa World Yearbook 1996 Europa Publications

(1) 国土の概要

カリブ海の西インド諸島南端に位置し、トリニダッド島とトバゴ島から成る。トリニダッド島の半分は熱帯林で覆われており、島の東と西の沿岸は一部湿地帯となっている。また、東から西にかけて3つの山脈（最高940メートル）が走っている。他方、トバゴ島は美しい浜辺に恵まれ、島の中央に沿って火山活動でできた山脈が走っている。

(参考文献)

『トリニダッド・トバゴ概況』 1995年4月 外務省在トリニダッド・トバゴ大使館
『世界年鑑』 1996 共同通信社

(2) 気候

トリニダッドの気候は熱帯性気候であるが、赤道に近いことから気温の年格差が少なく、年平均気温は27℃前後であり比較的しのぎ易い。特に、トバゴ島は貿易風をより多く受けるため涼しい。

東部海岸近くの山地では年平均降雨量が3,000mmを越えるが、北西岸及南西岸部では1,400mm以下となる。大別して、1～5月中旬が乾季で3月が最も雨が少なく、6～12月が雨季で8月が最も雨が多いとされており、降雨は雨季に集中している。なお、トリニダッドは、ハリケーン・ベルトのずっと南側にあるためその被害を蒙ることは殆どない。

(参考文献)

『トリニダッド・トバゴ概況』 1995年4月 外務省在トリニダッド・トバゴ大使館

(3) 人口

1994年の総人口は126万人（世銀資料、1995）である。また全人口の69%が都市部に集中している。

(参考文献)

Country Report : Trinidad and Tobago, Guyana, Suriname, Netherlands Antilles, Aruba windward and Luward Islands 3rd quarter 1996 EIU

(4) 略史

表-2：トリニダッド・トバゴ略年表

年 月	出来事
1498年	コロンブスによるトリニダッド島発見。
1596年	英国人によるトバゴ島発見。
1889年	英領植民地（トリニダッド島、トバゴ島合併）。
1961年	英国自治領。
1962年	独立
1976年	共和制に移行。
1986年	人民国家運動党の30年の長期政権終わる。国家再建連合党政権誕生。
1991年	総選挙で与野党逆転、人民国家運動党政権発足。

出所 『国情：トリニダッド・トバゴ』 1995年3月 外務省

(5) 民族等

アフリカ系黒人が41%、インド人が41%、混血が16%、白人1%、その他中国人等が2%という構成になっている。

(参考文献)

『国情：トリニダッド・トバゴ』 1995年3月 外務省

(6) 言語

英語が公用語である。

(参考文献)

『トリニダッド・トバゴ概況』 1995年4月 外務省在トリニダッド・トバゴ大使館

(7) 宗教

カトリックが33.6%、英国国教会が15.0%、ヒンズー教を25.0%、イスラム教5.9%である。

(参考文献)

『世界年鑑』 1996 共同通信社

(8) 文化

トリニダッド・トバゴは歴史的背景もあって一般的に言えば欧米の文化の影響を強く受けているが、それでもトリニダッド・トバゴで生まれたカリプソ音楽とスチールパン（ドラム缶を輪切りにして作った打楽器）の演奏は世界的に有名である。2年毎の秋の世界大会で披露されるスチールパンによるクラシック音楽の演奏は圧巻であり、さらに2月ないし3月のカーニバルも大規模なもので同国一のお祭りとなっている。

また、トリニダッド・トバゴは人種的多民族国家だけあって、インド系社会では、インドの伝統芸術と音楽もよく残されており、毎年9月か10月頃インド系住民によるヒンズー教の光の再転であるディバリ（Divali）のお祭りもある。

なお、現在英国で活躍しているインド系作家V. ナイポールは、トリニダッド・トバゴ出身であり、彼の有名な著作としては"A House for Mr. Biswas"、"India"がある。

(参考文献)

『トリニダッド・トバゴ概況』 1995年4月 外務省在トリニダッド・トバゴ大使館

(9) マス・メディア

1) 新聞

日刊紙としてトリニダッド・トバゴ・ガーディアン紙とエクスプレス紙及ニューズ・デイ紙がある。週刊紙としては、T & Tミラー、パンチ他がある。

(参考文献)

『トリニダッド・トバゴ概況』 1995年4月 外務省在トリニダッド・トバゴ大使館

2) 放送

テレビはTTT 国営テレビ局2チャンネルと民間テレビ2局4チャンネルがある。

ラジオはFM 4局とAM 2局がある。

(参考文献)

『トリニダッド・トバゴ概況』 1995年4月 外務省在トリニダッド・トバゴ大使館

表-3：経済指標 [トリニダード・トバゴ]

1) 主要経済指標 の推移	年	(1992)	(1993)	(1994)
GDP (百万TTドル) (注1)		23,118	24,987	N.A.
一人当たりGNP (ドル) (注2)		3,940	3,830	3,740
実質GDP成長率 (%) (注3)		-1.7	-1.7	N.A.
消費者物価上昇率 (%) (注1)		6.6	10.7	8.8
貿易収支 (百万ドル) (注1)		696	547	N.A.
経常収支 (百万ドル) (注3)		138.9	113.1	217.8
対外債務残高 (百万ドル) (注3)		1,374	2,133	2,218
債務返済比率 (%) (注3)		28.0	34.0	33.9
外貨準備高 (百万ドル) (注2)		190	228	N.A.
2) 通貨 (注4) (1996年8月9日)	通貨単位：トリニダード・トバゴ・ドル 1ドル = 5.9411 トリニダード・トバゴ・ドル			
3) 会計年度	1月1日～12月31日			

出所 (注1) International Financial Statistics Yearbook 1995 IMF

(注2) World Development Report 1994、1995、1996 The World Bank

(注3) Country Report : Trinidad and Tobago, Guyana, Suriname, Netherlands Antilles,
Aruba windward and Luward Islands 2nd quarter 1996 EIU

(注4) 東銀リサーチインターナショナル調べ

II 生活事情

1. 食生活

1-1 食料

(1) 一般事情

食料は豊富である。小さな島ではあるが、山、川、平野があり、気候は大きく乾季と雨季に分かれる。地味は重粘であるが肥沃で、適当な降水があるので、特に雨季の草の生育は旺盛である。たいていの熱帯作物は作付けされている。しかし、一部の作物を除き、放任に近い状態の作付けで、品質はよいとはいえない。

主食としては、米（インディカ型の長粒種）、小麦粉製品を主として、そのほかにも類（キャッサバ、ヤムイモ、さつまいも、さといもなど）、料理バナナがとられている。

副食品としては、たくばく質・脂質は、鶏、山羊、牛、豚の肉、鶏卵、牛乳、魚類、エビが豊富に出回り、大豆油は多量に消費されている。野菜、果物類も豊富で、雨季にはいくらか量が少なくなり質も落ちるが、乾季の初めには、大量に良質のものが出回る。いも類でもじゃがいもは全量輸入でもあるので副食扱いであり、そのほか好みもあって大豆以外の各種の豆類が消費されている。

加工食品は、政府が奨励し、輸出することも考えているようだが、規模や技術上の問題もあって、とりあげられるものは少ない。農産物ではジュース類、水産物では鮮魚、塩干物、少しの缶詰などである。国が小さいため、恒常的な原料生産、貯蔵施設、大量の消費など産業化できない要因がある。しかし、年間を通して品物の出回りは安定している。

日本食はまったくないといってよいが、94年に小規模ながら専門店が1軒開店して、カリフォルニア米、インスタント食品、味噌、醤油、豆腐、酒、菓子などが並べられ、当地日本人は元より当地の人でも利用している。但し、1年を通して常にあるとは限らない。日本米は、粘りがあるので当地の人に好まれない。一時期、カリフォルニア米の輸入が許可されていたが今は許可されていない。しょうゆも一時期アメリカ産のキッコマンがスーパーマーケットに出たことがあった。淡泊な味のもの好まれない。

中華料理の材料になるものは華僑経営の商店やスーパーマーケットの中国食品コーナーに売られている。たとえば、中国しょうゆ（塩分が濃い）、干しいたけ、缶詰のタケノコ、マッシュルーム、ワンタンや春巻きの皮、米粉（ビーフン）、春雨、インスタントラーメン（香港製で味はよくない）、中国茶などがある。

食品衛生については水道網が整備されているので、それほど悪い状態ではない。気温が高いので腐敗が早い。加熱あるいは冷凍、冷蔵などが必要である。水道水も比較的良質といわれ、当地の人達は生で飲み、あるいは製氷して使っている。石灰の含有量が多いため、洗濯の泡だちはよくなく、木綿は硬化する。たまに下痢をしたり、食中毒の話も聞くので、生ものには十分注意した方がよい。ミネラルウォーターが市販されており、それを利用することをすすめる。

(2) 主な食料の出回り状況

米—米は主食として扱われるが、食べるのは1日に1回、昼食か夕食である。

消費は増えているが、自給生産は10%くらいで大部分を南米のガイアナやアメリカからのもみ輸入に頼っている。

粘りのない米が好まれ、長粒種（インディカ型、日本米は短粒種でジャポニカ型という）である。もみすり、精米の時の破碎を防ぎ、さらに粘りをなくすため、もみのまま煮て糊化してから乾燥、もみすりしたパーボイルドライス（ブラウンライスともいう）が2・5・9キログラムの袋で売られている。

長粒米のもみをそのまま精白した白米も売られており、最近出荷量も多くなった。この白米は、もみの産地により品質の違いがあるが、外観では判断できない。ひと袋試しに買い、試食して良質の時はまとめ買いして冷凍庫に保存しておくのがよい。この国の米作農民は、村に精米所がないので自給できず、全量を国（ナショナル・フラワー・ミルという大精米工場）に売って（価格は保証されている）、自家食用は市場で買っている。そのほか、機会があればカリフォルニア米をアメリカで買って携行する方法もある。大使館および商社の家族は、これらカリフォルニア米をマイアミから購入している。価格は10キログラム入り13～15ドルである。

その他の主食—パンとインド系の人達が常食する「ローティ」がある。これらはいずれも小麦粉製品で、小麦が生産できないので全量輸入である。なるべく輸入を減らして外貨を節約するという国策から米の増産、米食を奨励したいところだが、一気に小麦の輸入を減らすことはできない。玄麦を輸入し、前述のナショナル・フラワー・ミルで名称どおり製粉し、袋詰め出荷している。そのふすまは飼料用として、後述の畜産農家に供給されている。パンは、なかなか品質がよい。弾力があり美味である。中小の製パン業者が各地にあり、メーカーによっても味の違いはあり、好みに合ったものを選べばよい。ローティは主としてインド系の人達が好んで作り、1日1～2回主に昼食に食べる。作り方も各種あるが、小麦粉と相当量の大豆油を使うのは共通している。小麦粉を水で練り油を加え平らにのして鉄板で焼くが、焼く時も相当量の油を使う。そのほか、カレー粉を加えたり、練った生地の中に豆の粉（荒い黄粉のようなもの）を層状に入れたり、自家製のものは、一軒一軒、作り方や味が違うともいわれている。この焼いたものを、エビ、牛肉、豚肉、山羊肉、鶏肉、野菜、じゃがいも入りのカレー汁をつけながら食べる。この汁にも、独特の香辛料がきかせてある。手でちぎって汁をつけて食べるので好まない人もいるが、慣れると味があり、腹持ちもよくおいしい。日本のお好み焼きに近い。

肉類—鶏肉がもっとも一般的であり、安くもある。そのほか、牛肉、豚肉もあり、セントラルマーケットへ行くと売っているが、宗教上の制約で食べる人と食べない人がいる。ただ、セントラルマーケットのものは、どこでどのような状態で屠殺されたものかわからないこと、検査制度もないことから、用心した方がよい。冷凍肉専門の業者が何軒もあり、特に牛肉は、アメリカやオーストラリアから輸入されたものを売っている。割高ではあるが、安心して食べられる。スーパーマーケットでも容易に手に入る。肉はいずれも骨付きで、調理もそれをぶつ切りにして骨付きのまま焼いたり煮たりする。

卵—鶏卵も豊富に出回っている。スーパーマーケットのものは、日付入りで冷蔵販売されているが、セントラルマーケットや小売店頭のもの、新鮮なものかど

うかわからない。信用のおける店や顔なじみの店で買うのがよい。生卵は食べない方がよい。

乳製品—草の生育が旺盛なだけに、10頭前後小規模の草酪農が盛んである。ネスルの製酪工場から成分調整された1リットルのパック詰め牛乳が豊富に出回っている。フルクリームとローファットがある。牛乳の宅配はない。乳脂肪のバターと植物性脂肪のマーガリンがある。チーズは、当地では生産されず、すべて輸入である。輸入政策により品切れの時もある。ヨーグルト、乳児用の粉乳、加糖練乳はある。

野菜—日本でいう夏野菜は、年間を通して豊富に出回っている。きゅうり、ナス、ピーマン、かぼちゃ、トマト、オクラ、キャベツ、花野菜、レタス、中国野菜のパクチョイ、香辛料としての細ネギ(日本のわけぎのようなもの)、クレソン、さといも、さつまいも、ショウガなどである。日本では沖縄に多くみられるニガウリ、トウガンなどもある。もやし、白菜もときどきみられる。時期により出回り量の多寡はある。雨季、長雨や洪水があった時は少なく、もっとも多く質のよいのは乾季の初め頃である。根菜類は、土壌が重粘のためまったく作れないといってよい。たまに大根が出荷されていることもある。短く形が悪いが、質は悪くない。にんじんは需要がかなりあるにもかかわらず作れない。全量、カナダ、アメリカからの輸入で、形状の揃った良質のものが出回っている。需要があるのに生産できないものにタマネギとじゃがいも、ニンニクがある。いずれもカナダ、アメリカからの輸入である。これらの輸入農産物も政策により量や価格にかなりの変動がある。まったくなくなることはない。この国の野菜の特徴は、かぼちゃは大型(1個で10キログラムくらい)のものを1キログラムくらいに小さく切り分けて売っていること、きゅうりは、日本で瓶詰のピクルスにみられる長さ10センチメートルくらいで太くずんぐりした形をしていること、オクラは大きく育ってはいるが案外やわらかく大量に出回っていること、キャベツ、カリフラワーは、品質がきわめてよいのが出ていること、たまにブロッコリーが出ている、トマトは小粒で不揃い完熟で酸味が少なく種や皮が固いことなどである。かぼちゃは、そのまま煮て食べても水っぽくおいしくない。当地の人は、トマトやオクラなどと煮て、ドロツとしたスープに使うようである。当地の郷土食というか、数少ない独特の料理として、カラルーというスープがある。これもローティと同様、家によって作り方の独自性があるが、ベースにはダシブッシュというさといもの若い茎、オクラをすりつぶしてドロツとさせたもので、それにやしがにの肉を入れたりして、香辛料を使った味つけで、メイドや地元の人に作ってもらうとおいしいものである。こんにゃく、ほうれんそう、太ネギ、ニラなどはない。当地の人がスピナッチと称して揚物に使う野菜はあるが、日本のほうれんそうとはまったく別物である。近年、日本の野菜種子も品質改良が進んで、耐暑、耐病性のあるものも作り出されているので、日本から種子を持参して、家庭菜園などを作ってみるのもよい。

果物—亜熱帯果実は、ドリアン、マンゴスチン以外はたいていある。野生に近い栽培が多く質はあまりよくない。種からひとりで生えて実をつけたという状態のため、同じマンゴーでも何百種類、オレンジやグレープフルーツもいろいろな形

体のものが出ている。しかも季節性がはっきりしているため、出る時は一斉に出て、なくなると一斉になくなるという状況である。バナナ以外は種があり、しかも大きい。マンゴーのジュリーという種類だけは、種の大きさのわりには可食部分が大きく、甘味も強くて品質がよい。接木によって増殖された苗木が売られている。スイカは年中出回っているが、特に1月以降、4～5月までの乾季のものは甘味があり、美味である。野菜、果実とも品質差が大きく、選別されないまま売られているので、眼を養いよいものを購入することが必要である。

魚類—フィッシュマーケット（卸売市場だが、小売りもしてくれる）か、セントラルマーケットが主な買いどころで、行商がくることもある。スーパーマーケットは限られた数種の魚と塩干魚だけである。高速道路際にトラックで持ってきて売っているものもあるが、これは衛生上あまりよくない。熱帯海域の魚類が豊富であるが、いずれも脂がのっていない淡泊、大味のものが多い。エビだけは小から小まで年中出回っていて、当地の人にとっては高価、高級品だが、われわれ日本人には常用される魚である。乾季の1～2月頃はよいものが比較的安く豊富に出回っている。そのほか、キングフィッシュと呼ばれるものや、サメ、タイなどがあり、煮たり、焼いたり、揚げたり、ものによって、日本人の生食の話も聞くが、95年に鮮魚専門店が1軒開店し、マグロ、エビ、カニ、貝他刺身用のものが手に入手できるようになった。長年在住している邦人から情報を得るとよい。たまに小さいイカが出ていることもある。

調味料、食用油—当地の調味は塩が主で、そのほかに、コショウ、とうがらし、ニンニク、ショウガ、スパイス、ハーブ類で、これらをすり込んで作ったSeasoningと呼ばれる瓶詰の調味料がたくさん出回っている。これは、メーカーや銘柄によって味が違うので、利用経験や好みにより選択すればよい。多く使われるのが、酢、カレー粉、トマトケチャップ、マヨネーズ、マスタード（洋がらし）、化学調味料などである。中国しょうゆも多く出回っており、肉料理の風味づけなどに使われる。これは塩分がきわめて濃く、日本のしょうゆのように生で使ううま味はない。みそは、当地にはない。大豆油は豊富に出回っている。先述のローティには不可欠で、大豆を輸入して、国内の工場で搾油している。そのほか、輸入品のオリーブ油、ごま油などもあるが高価である。

酒類、飲料水—酒類は豊富にあるが、宗教上の理由からまったく飲まない人もいる。しかし、ソフトドリンクと称するいろいろな飲み物がある。ビールは国産2大銘柄のカリブビール、スタックビールのほか、ハイネケンがライセンス生産されている。甘味酒のマルティーニ、シェリー、砂糖きびから作られる蒸留酒の各種ラム、輸入物のスコッチウイスキー、ブランデー、ワイン類がある。日本酒は売られていない。コーラ類やジュース類（ネッスル）をはじめとするソフトドリンクも各種あり、コーヒーの味のするマルタ、炭酸飲料のジンジャーエールなどがある。クリスマス飲料のソレルドリンク（ソレルという植物の花がくを浸出した赤色飲料）、ラムパンチ、チェリー（本当のさくらんぼではない）ジュースなど手作り飲料も時々売られているが、日本人には甘味が強すぎる。ミネラルウォーターは、外国人にはよく利用されている。

その他――外貨事情の悪化で、輸入は極力減らし、国産で賄おうという政策である。したがって、生活必需品から優先的に輸入されるということであり、小麦（全消費量）、もみ（国内生産は現状15%くらい）、大豆、トウモロコシ（飼料用）などが優先されている。一方、Negative Listがあつて、商用には輸入禁止になっているものがある。しかし、観光旅行者用に、高価ではあるが、リストに載っているものでも出回っていることがある。

いずれにしても、恒常的供給ではないので、みつけた時に買いだめしておくということにならざるを得ない。また邦人同士の情報交換も貴重である。

(3) 食料の入手

日本食に必要な調味料は携行するか、送るか、旅行の際に購入するかである。なお、マイアミには、日本人の経営で日本食品専門のスーパーマーケットがあり、食料品の調達ができる。

主な品目は、みそ、しょうゆ、けずりぶし、海藻類、めん類（マカロニ、スパゲティはある）、好きな人にはインスタントラーメン、日本製カレー、日本製ソース、緑茶、麦茶、中国茶、するめ、せんべい類、ようかんなどがある。

送る際は、航空便か船便で、前者は10日前後、後者は船の都合で1～3ヵ月かかる。いずれも量は限られるが、郵便を使えば通関も簡単で入手しやすい。普通の荷物は、通関手続にかなりの日数がかかる。

その他の食品の入手先としては、モールと称するショッピング街のスーパーマーケットである。駐車場もあつて、購入方式は日本と同じである。しかし、生鮮食料品はあまり品質のよいものはない。

品質のよいものを求めるなら、道路沿いの生産者直売の店か、大きな町には1ヵ所くらいずつあるバザールに出かけるのがよい。首都ポート・オブ・スペインにはCentral Market Association（CMA）というのがあつて、卸売市場と小売市場を経営している。毎週金、土、日曜日の3日間、朝5:30頃から10:00頃まで開かれる。品数も多く新鮮で、価格も適当であり、なによりもよいのは、好きなものを選択して買うことができるということである。休日の早朝に出かけねばならないが、警察の警備もあり、スリなどに注意すれば比較的安全な買物ができる。

1-2 食器・調理器具など

(1) 食器・調理器具などの入手

日本食など、特殊な用途以外のものは、たいがい当地で入手できる。

電気調理器具は、電力110ボルト、60サイクルのものが各種出ている。ただ電気釜は、小型のもの（小人数用5合炊き以下のもの）は見当たらない。冷蔵庫は必需品で、食品貯蔵庫も兼ねて大型のものが2つくらい使っている人が多い。

食器類は、日常用からイギリスなどからの輸入品、銀製品などの高級品まで、各種出回っている。中華料理用食器もある。

(2) 日本から持参した方がよい食器・調理器具など

日本食専用のものは当地にはない。例えば飯茶わん、汁わん、先が細くなっているはし、はしおき、どんぶり、小鉢類、急須、茶わん、茶托、日本酒用徳利、盃などである。調理用では、のり巻き用のすのこ、おろし金（チーズ用やココナッツオ

イル用のものはあるが、歯が粗い)、焼き網などである。

生活雑貨は、香港、台湾、中国、ブラジルなどからの輸入品が多く、質はあまりよいとはいえないが実用には耐える。

後述の外食はあまり楽しめるところがなく、家庭料理が一番日本人の口に合うので、日本人同士はもちろん、当地の人も含めて、夕食に呼んだり呼ばれたりという機会が多い。そのための食器類は10人分前後を用意しておく方がよい。

1-3 外 食

(1) 飲食店

特徴的なレストランは少ない。主要ホテルにはレストランが付設されていて、それなりの雰囲気はある。中華料理店は、高級なものから大衆的なものまで多数ある。95年に日本レストランが開店し、多くの在留日本人はもとより、当地人にも利用されている。材料は当地産のものも利用されているが好評を得ている。

また、曜日を決めてバーベキューやビュッフェスタイルの料理を出すレストランもある。

(2) その他の飲食店

最近、ハンバーガーショップやフライドチキンなどのファーストフードの店が各地にできて、結構繁盛している。また、モールには必ず飲食店の集まった場所があって、中華風からパン、ピザ、マカロニなど洋風まで、手軽に食事ができる。

この国の特徴的なものとして、ローティショップがある。ローティにつけるカレーの種類により値段が違い、店により味も違うが、昼の外食には楽しめる。路傍でもインド食料の揚物や小麦粉製品を売っているが、あまり衛生的ではない。

また、路傍でヤシの実を冷やして売っている。1個2 T.T.ドル、注文するとカトラスという鉈で実の頭部を切って、なかの水を飲むようにしてくれる。少し青臭いが、甘い水はかわいたのどを潤してくれ、慣れればおいしい。コップ2杯程度の量があり、鉄分を多く含んでいて健康にもよい。飲みおわると、殻を割って、内壁に層状についたゼリー状の脂肪分も食べることができる。

2. 衣 料

2-1 衣 料

(1) 一般事情

北緯10℃の熱帯ではあるが、2つの島を合わせても日本の千葉県程度の広さのため、気候は海洋性、温暖で、非常にしのぎやすい。気温は年間を通じて高くても31～32℃、最低でも23～24℃である。

したがって、衣料は夏物だけでよい。一時帰国やその他の任国外旅行のことを考慮に入れて合物の下着やコートも用意しておいた方がよい。

当国も最近、縫製工場が稼働して既製品も多くなったが、素材や縫製はあまりよくない。手作りやお針子（シームストレスという）に仕立てを頼む場合も多く、その布地、材料も豊富に出回っている。しかし、布地や材料の質はあまりよくなく、柄も日本人の好みに合ったものは少ない。デザインを指定して縫製を頼むこともでき、また自分で縫うのもよい。ミシンはいろいろな種類が出回っているが、日本製は良質なので必要に応じて持参するとよい。当地製のものは安価であるが質はあまりよくない。

(2) 日本から持参した方がよい衣料

当地の衣料品は、全般的に品質、縫製、柄、デザインなどあまりよくない。特に肌着は持参した方がよい。作業服は、日本製が格段に優れている。日本のサイズの洗顔タオル、手ぬぐいは当地にないので持参した方がよい。

タオル専門店があつて種々のものを売っているが、あまり質がよくない。寝具としてのタオルケットはないので、是非持参するのがよい。パジャマなどは吸汗性のある夏物を数着用意した方がよい。特に子供用は、準備して行く方がよい。

帽子は日よけとして必需品だが、適当なものが少ないので、気に入ったものを日本でみつけた方がよい。

さらし木綿を一反持ってきておくと、役に立つ。

(3) 任国で調達した方がよい衣料

ふだん着はいろいろ出回っているので、気に入ったものを探せばよい。色、デザインとも面白いものがある。

雨具はあまり必要ではない。車を使うことが多く、ちょっと雨宿りすればあがることが多い。傘は、大型のものを売っている。また、道路はほとんど舗装されているので、雨靴は必要ない。

履物や靴下も、特殊な作業用を除き、各種豊富に出回っている。靴墨も各色売っている。

(4) その他の留意点

常夏の国で、周囲がすべて海であり、プールもホテルから地域用や自家用まで各種あるので、浜遊び、海水浴、水泳は数少ない娯楽のひとつである。したがって、浜遊びの衣類、用具、水着などはあつた方がよい。当地にも小児用から大人用まで各種のサイズ、色、柄、デザインがそろっている。これも他の衣料同様、原色のはでなものが多い。

2-2 礼 装

(1) パーティ

日本人同士、あるいは親しい友達を招いてのパーティは、随時開かれる。しかし、この時は服装は自由で、オープンシャツなどカジュアルなものが普通である。大使主催で公邸で開かれるパーティの場合は、背広と指定されることもある。

女性は、TPOに応じてやや改まった時は、ロングのワンピースを着用する。着物は専門家の場合、特に必要ではない。持っていれば一着持参するのもよいが、暑い国で汗じみを作りやすいので、高級品はすすめられない。手入れの簡単なゆかた姿は清涼感を与えるので、夏帯とともに一着用意するのもよい。

(2) 式 典

大使館では、日本人として正月および天皇誕生日を公邸でお祝いする。この時は、背広・ネクタイを着用する。

そのほか、立場により任国の式典、あるいは外国の式典に招待されることもあろうが、背広・ネクタイ着用でよい。貸衣装はない。

(3) その他の冠婚葬祭

結婚式は、比較的カジュアルな服装である。女性は着飾って列席している。特に身近な関係の人はネクタイ、背広であるが、それ以外はシャツスタイルできている。民族衣装（特にインド系）をまとっている姿もみられる。

葬式は、ほとんどが黒ネクタイ、背広である。

(4) その他の留意点

ネクタイはほとんどしめていないのが一般的である。したがってネクタイは祝儀、不祝儀含めて5～6本もあればよい。市販もあるが、よいものは少ない。

2-3 洗濯、仕立て、修繕、保管

(1) 洗 濯

家具付きの借家は洗濯機がついているのが一般的である。全自動のものや乾燥機もあるので、洗濯は家で済ませることが多い。洗剤も、各種出回っている。衣料につける糊も、粉や缶入りのスプレーがある。アイロンは、電気店に各種売っている。これらは、掃除とともに通いのメイドの仕事である場合が多い。

クリーニング店は、町に店をかまえている。ドライクリーニングもできるが注文とりや配達はない。しかし、職人の技能の程度は不明である。動物性繊維の高級品を頼むには、不安がある。

(2) 仕立て、修繕

前述のように、各種の素材を売っているなので、オーダーにより気に入ったものを作ることはできる。紳士服も、イギリス製の生地があり、仕立てを頼むこともできる。あまり丁寧な仕事を期待しない方がよい。

(3) 保 管

特殊な場合しか着用しない高級品の保管などは、注意が必要である。防虫剤はスーパーマーケットで売られている。

3. 住 宅

3-1 住宅事情

(1) 一般事情

ここ数年来、石油価格の低迷や経済発展の低調により外国人の引揚げが多く、住宅需要は一気に低下し、空き家も目立つようになってきた。しかし、最近はまだ上昇気味といわれている。

都市住宅は、イギリス風の間取り、デザインであり、トタンぶき、コンクリートあるいはブロック造りが多い。数年に一度、内外とも塗装を重ねている。木造住宅は少ない。

ホテル事情も住宅と同様で、観光シーズン以外はいている場合が多い。観光シーズンは、クリスマス前後の冬季バケーション、2月上・中旬のカーニバル・シーズンと、学校が休みになる7～8月である。特に冬季は満杯になり、早期予約が必要であり、料金も高騰する。

環境は都心部を除き緑が多く、概して良好である。水道もほぼ完備しており、やや硬水だが飲用もできる。量水器はなく、地域により引込口の数で料金が決められている。都市部は高い。また、施設が老朽化していて漏水破損が始終あり、その修理対応の遅いのが難点である。また、地域や時期により断水することもあるので、各戸で水タンクや加圧ポンプを持っているところが多い。井戸はほとんどない。

電気は、家庭用は110ボルトで、燃料が豊富なため低料金である。ときたま停電があるので、ローソクやランプを各戸で用意している。自家発電施設を備えているところも多い。

治安はあまりよくない。最近の不景気による失業者の増加は、社会不安を助長している。住宅の出入口や窓には、鉄格子がはめられ、出入口の鍵は少なくとも2つ以上つける。2～3頭の犬を飼うなど自衛策をたてること。防犯ベルをつけ、高級住宅ではガードマンを雇う家も少なくない。後述するが、車の盗難防止も大切である。

3-2 ホテル事情

観光もこの国の産業のひとつとして重視されているので、ホテルはかなり完備している。しかもピンからキリまで各種あり、それぞれ特色がある。

一般的によく利用されるホテルは、次のとおりである。なお、料金は食事別の宿泊料のみで、サービス料、税金込みの大使館の割引料金である。また、エアコンの音や車の音がうるさい部屋もあるので、部屋の選択・指定は注意した方がよい。

* Chaconia Inn

住所：106 Saddle Rd. Maraval

電話：628-8603～5

特記事項：料金は230T.T.ドル（10%税込み）である。ポート・オブ・スペイン都心から北西へ4キロメートル入った谷間のホテルで、週末のバーベキューで有名である。

*** Holiday Inn**

住所：P.O. Box 1017, Port of Spain

電話：625-3361

特記事項：料金は375T.T.ドル（10%税込み）である。都心、港に近い12階建て、回転展望レストランがある。

*** Hotel Normandie**

住所：10. Nook Ave, St. Anns

電話：624-1181

特記事項：料金は212T.T.ドル（15%税込み）である。都心から北へ2キロメートル、木造のホテルでひなびた暖かみが持ち味、特徴的なアーケード街がある。

*** Kapok Hotel**

住所：16-18 Cotton Hill St. Clair

電話：622-6441

特記事項：料金は362T.T.ドル（10%税別）である。日本人にもっとも利用される華僑経営のホテルである。大使館や農業省に近く、便利であるが、ホテル前の道路は車の交通が激しい。炊事施設付きの部屋がある。レストランは中華料理がある。

*** Trinidad Hilton**

住所：P.O. Box 422, Port of Spain

電話：624-3211

特記事項：料金は420ドル（10%サービス料別、15%税別）である。Savannahの北東、小高いところにあり眺望がよい1級ホテルである。プールサイドでは日曜日にスチールバンドが楽しめる。

3-3 住宅の探し方

着任後、ホテルに1週間ないし10日くらい泊まって住宅を探すのが一般的である。当地の事情に詳しい知人の人脈、口コミにより探すのが信用もおけてもっともよい。しかしながら範囲が限られるので、新聞広告を利用するが多い。広告はあっせん業者が出している場合が多く、物件も豊富にあるのでそれを活用するのがよい。

電話で日時を打ち合わせ、物件をみに行くことになる。選定の重点目標を明確にしたうえで、できるだけ多くの物件をみた方がよい。多数のなかから気に入ったものをじっくり探した方がよい。短い期間の滞在であっても、契約期間は最低1年であり、いったん入居すると再度の移転は容易でないからである。

3-4 住宅の選定上の留意点

職業、地位、民族、人種などによる住み分けがあり、近所にどういう人達が住んでいるかという視点はひとつの基準になる。もっとも安全なのは、マンション風の集合住宅である。入口には24時間ガードマンが配置されていて、出入りはチェックされる。プール、テニスコート、バーベキュー施設など共益施設を備えているものが多い。しかし、動植物の飼育などは限定され、騒音などには気を使うという欠点もある。

熱帯のためエアコンは必需品であるが、通風がよいとほとんど使わないですませられる。北東風が多いので、その方向が開けていることが望ましい。自然の変化や小島などが間近にみられるので、生活に飽きがこない。

家具付き住宅の方が便利である。必要なものは自分で購入して、滞在終了の時にガレージセールで売るという方法もあるが、なるべく家具は揃っている方がよい。入居時の契約で必要なものを要求し、入れてもらうという方法もある。

子供がいる場合の通学、日用品の購入場所、職場への通勤の距離、時間、交通状況などいずれを優先するかは本人の考え次第だが、市街図を入手して確認するとよい。

給水状況がどうであるかということも、チェックすべき重点のひとつである。高台の住宅は、環境など他の条件はすべてよくても、水圧の低下や断水の可能性があるからである。

単身赴任は、家の管理などからアパートやマンションまたはホテル住まいとなる。

そのほか、生活熱源は電気かLPガス（これはボンベを買ってガスの補充をする方式で価格は安い）であるが、停電のことを考えればLPガスがよい。その他のチェック項目としては、排水施設、施錠方式、湿気の状態、害虫の有無などがある。当地では使用人は通いが一般的であり、あまり必要ではない。

3-5 住宅の契約

気に入った住宅が決まれば、家主との契約ということになる。あっせん業者がいれば当然仲介の第三者として契約の立会人となるが、いない場合でも当地の事情に詳しい人に立ち合ってもらう方がよい。契約前に十分話し合っただけでその内容を成文化し、それを確認のうえサインをするということになる。

契約書はおおよそ決まった書式がある。その主なものは、契約期間は最低1年、家具を新しくつけてもらうなど施設の改良を要求した場合には、家主の要求で1年半や2年に伸びる場合もある。敷金は1ヵ月分で、これは入居中の家屋が施設の損傷、各種の支払い（電気、水道、電話などの契約者は家主になっている場合が多い）がなければ契約終了時に返却される。契約期間満了2ヵ月前に更新するか打ち切るかを通告する。打ち切りの場合は、新入居希望者のあった時、部屋をみせるなどしなければならない。

あっせん業者を頼んだ場合、その手数料は家主が支払うのが慣行である。

3-6 電気、ガス、水道などの手続と管理

電話料の請求は2ヵ月ずつくるが、納入が1ヵ月遅れるとすぐにサービス停止で切られてしまい、注意が必要である。

家具付き住宅を多く利用するので、保険は家主がかけているようであるが、もし借り手の責任で損傷した場合には、弁償するという契約にもなっている。いずれにせよ、契約時に確認すべきである。

防犯対策は、一般事情でも述べたとおりで、邦人が被害を受けた事例もあるので注意が必要である。出入口は日中でも施錠しておくこと。泥棒の侵入は事前に必ず下見をしているはずなので、日常から厳重な対策がしてあることを示すこと、すきを見せない、作らないことである。鍵のコピーを作ることは簡単に行なわれている

ので、自前のものを使う部分を設けるとともに、ときには変更することも必要である。

ゴミ処理はポート・オブ・スペイン市内ではわりあい頻繁に行なわれる。野犬に荒らされないようにして袋詰めにして出しておけば、毎日、あるいは1日おきぐらいに収集車で持って行ってくれる。し尿は、どこでも水洗便所で、各戸に浄化槽を持ちおり、ほとんど問題はないが、チェックをした方がよい。

3-7 その他

該当情報なし。

4. 医 療

海外生活でもっとも心配なのは、病気をした時である。特に、コミュニケーションが日本語のように自由にいかないことや、医療の慣行が違うこともあるので不安がつきまとう。したがって、健康には万全の注意を払うとともに、事前の対策が必要である。病気になった場合は、長年の経験を有する当地の邦人のアドバイスを受けることよい。

急性の場合にはあわてるので、日頃から邦人同士、当地の人々とも交流をよくしておくことが肝要である。

当地は水道網も完備しており、中流以上の住宅地域では衛生状態も悪くはない。ただ、気温が高いので生鮮食品は腐敗が早く注意を要する。また、精神的なものからくる胃腸炎、下痢もあるので、ストレス解消策も必要である。

乾季は高温、乾燥のためかぜをひきやすい。外出から帰っての手洗いやうがいには励行した方がよい。

医療機関や薬局は、市内なら各所にあり、症状や必要なことをうまく表現できれば不便はないようだが、邦人や世間の評判、経験談をもとに利用するのがよい。

4-1 赴任前の準備

(1) 予防接種

特に法律で定められた予防接種の必要なものはない。また、そういった病気が発生した話もない。しかし、犬に対する狂犬病の予防注射や破傷風菌の感染が心配な場合は、接種はしておいた方が安心である。

1989年1月、南部トリニダッドで黄熱病で死亡した野生猿が出たため、全国的に黄熱病の予防接種が行なわれた。しかし、その後は問題は起きていない。こういう場合の無料予防接種体制は、地域ごとの保健所（Health Centre）によってできている。

(2) その他の準備

眼鏡店はモールの中にある。検眼もできるので心配はないが、予備をひとつ準備しておいた方が安心である。コンタクトレンズはあるが、あまり普及していない。

当地にも歯科医はおり、治療可能であるが、技術的にあまり高くない。事前に日本でできるだけ治療してきた方が得策である。常備薬は、赴任時に携行する共済会の医薬品で十分である。

4-2 医療事情

(1) 医療機関

都市部は、かなり完備しているといってもよい。国立病院をはじめ大・中病院もあり、市内各所に Doctor's Office の看板を掲げた開業医もある。

保健省が運営する保健所が地域ごとにあって、いちおうの診察、投薬、予防接種、家族計画の相談なども行なっている。母子手帳に相当するものはないが、予防注射などをした場合は、記録、証明をしてくれる。日本の手帳がある場合は持参して、記録してもらうとよい。

日本人が利用できる医療機関は、次のとおりである。なお、いずれにも日本人医師はいない。

<総合病院>

* Port of Spain General Hospital

住所：Chartol St., Port of Spain

電話：623-2951～6、623-5261～2

特記事項：診療科目は全科である。入院は可能で、個室、その他の部屋とも無料である。緊急医療対応ができる。しかし、無料のため、いつも非常に混んでいる。

* Port of Spain Seventh Day Adventist Hospital

住所：Western Main Rd. Cocorite

電話：622-1191～2

特記事項：診療科目は全科である。入院は可能で、1日当たりの入院費は個室が190T.T.ドル、その他が140T.T.ドルである。宗教的戒律がある。

<クリニック、開業医など>

* St. Clair Medical Centre

住所：18 Elizabeth St., St. Clair, Port of Spain

電話：628-1451～2

特記事項：入院は可能で、1日当たりの入院費は、個室が300T.T.ドル、その他が200T.T.ドルである。予約は必要。緊急の場合以外は医者が予約して手術室、病室を使用する。

* Stanley's Maternity Clinic

住所：1 Rapsey St., Port of Spain

電話：622-1077

特記事項：診療科目は産科である。入院は可能である。産科医が契約して、病室や医療機器を借りる施設である。

* Dr. David Bratt

住所：5 La Croix Ave., Diego Martin

電話：625-3839

特記事項：診療科目は小児科である。

* Dr. K. S. Achong-Low

住所：4 Herbert St., New Town

電話：622-0122

特記事項：診療科目は産婦人科である。

* Dr. David B. E. Quamina

住所：40A, Ariapita Ave.

電話：628-9256

特記事項：診療科目は皮膚科である。

* Dr. Arthur Namsoo

住所：110 Frederick St.

電話：623-1753

特記事項：診療科目は眼科である。

* Dr. Christopher Young

住所：47 French St, Woodbrock

電話：622-7840

特記事項：診療科目は歯科、外科である。

* Dr. L.A. Fung

住所：Specialist Centre 74-76, Dundonald St.

電話：625-4123

特記事項：診療科目は外科である。

* Dr. M. A. Aziz

住所：35 Long Circular Rd., St. James

電話：622-3549

特記事項：診療科目は耳鼻科である。

(2) 緊急時の対応と措置

いつでも、どこでも救急車を呼ぶことができる。電話番号は990で、日本と同様、消防署に配置されている。そのほか、赤十字は627-8214、また St. Jhon Ambulance という救急車センターは627-7792である。

4-3 医薬品など

(1) 携行することが望ましい医薬品

JICAで医薬品一式を用意するものを持参すればよい。日本で日常使っている薬は、持参した方がよい。

(2) 任国で調達できる医薬品

イギリスから輸入される各種医薬品を薬局で購入することができる。抗生物質は、医者の方せんがないと購入できない。医薬分業である。

(3) 任国で調達できる衛生用品

生理用品、包帯、ガーゼなどいずれも調達できる。内装品は危険性があるので使用はすすめられない。

(4) 医薬品を使用する場合の留意点

該当情報なし。

4-4 妊娠、出産、育児

(1) 妊娠した場合の対応

かかりつけの医師に常に診察を受け、経過により緊急の対応も可能である。当地で出産した人もいる。初産の場合、大事をとって安定した時期に帰国、日本で出産する方がよい。

(2) 出産後の対応

生後3ヵ月頃から、保健所で母子検診や予防接種が行なわれている。

(3) 育児

育児用品は、Shopping Mall へ行くと専門店もあって各種販売されている。紙おむつも入手できる。

育児上の留意事項としては、蚊、ハエの防除とエアコンの使い方、ベビーシッターがあげられる。

4-5 手 術

(1) 任国で可能な手術

普通の手術は可能である。最近、検査設備も整えられてきており、医療機関の項でも述べた総合病院あるいは医師の共同利用施設で行なわれている。

(2) 手術設備の状況

該当情報なし。

(3) その他の留意点

入院時の留意事項としては、当初保証金が必要なので、数百ドル準備して行くことである。これは後日、精算される。医療方法が日本と違うので戸惑うこともあるが、要望や意見は遠慮しないで述べる方がよい。完全看護体制で、看護婦はかなりよく訓練されている。

4-6 任国でよくかかる傷病

(1) 一般の疾病

一般的に多いのが消化器系の病気で、下痢、腹痛である。水に慣れていない、精神的ストレスからくるものが多い。生ものからくる中毒もあるので、注意する方がよい。インフルエンザもときどきはやる。下痢をしたり、鼻づまり、せき、発熱など、早い時期に対症薬を飲んで治療した方がよい。

(2) 風土病・伝染病

特別な風土病や伝染病はないが、1991年初めにはマラリアの発生があり、問題になった。

(3) 有害動物、病害虫

有害動物、害虫は、山林や原野、農村部にはかなりいるが、蚊、ハエを除き都市部ではあまり見聞きしない。蚊は小さいが敏捷で、体質によりかなり刺されたり、はれたりする。

蚊取線香や薬剤による防除が必要である。当地の蚊取線香はあまり効かないので、電気蚊取器の方がよい。

4-7 保健衛生

(1) 飲料水

前述のように飲料水は全部上水道で、比較的良質であり、生水も飲用可能である。しかし、慣れないと下痢をしたりするので煮沸することをすすめる。硬度はかなり高いので、濾過器はつけた方がよい。

(2) 濾過器の入手法

該当情報なし。

(3) その他の留意点

該当情報なし。

5. 教 育

5-1 教育事情

(1) 一般事情

当国の教育は、かなり普及している。国民の100%近くが就学している。村々に小学校がある。しかも宗教により学校が分かれているため、大きい村では近くに2校ある。Hindu School や、Presbyterian School、Roman Catholic School などである。小学校（5年間）の5年生の時に、全国一斉の試験（Common Entrance）があり、その成績により進む学校が決められる複線式の制度である。成績のよい者は College という高等学校（5～7年間）に進んで、University（3年）に進むことができる。そのほかに Comprehensive School（総合学校）にシニア（2年間）とジュニア（2～3年間）がある。

全体の教育水準は低くはない。高い収入や地位を得るためには、よい学校をよい成績で出ていなければならないので、かなり厳しい試験地獄、受験戦争が小さい頃からある。

(2) 日本人学校

日本人学校はない。

(3) 現地校、外国人学校

現地校は一般事情で述べたとおりである。また、外国人学校というものも特にない。何校かの私立学校があり、日本人子弟はそこに学んでいる。St. Andrew's School（小学校）では、1クラス24～25人で、かなりきめの細かい、程度の高い教育が行なわれている。日本人子弟の在校生は現在いない。

(4) 幼稚園

日本のように、はっきり幼稚園、保育園と分かれてはいない。すべて私立で、託児所のような乳幼児を預かることから学齢前の幼児を教育するところまでであるが大きなものはない。

5-2 入学手続および授業料

(1) 日本人学校

日本人学校はない。

(2) 現地校、外国人学校

私立学校は、校長の面接を受けて入学が許可されるが、ある程度英語ができないと授業についていけないので、特訓の補習授業が必要となる。日本人子弟の多くが入学している学校及びその内容は以下の通りである。なお、授業料は1995年4月現在の状況である。

◇ St. Andrew's School

授業料：U.S. \$ 1,600 / 年間

対象年齢：4～13

備考：現地有名私立校。白人、外国人が多い。

◇ Dunross Preparatory School (女子校)

授業料：T.T. \$ 1,800 / 学期

対象年齢：3.5～11

備考：現地有名私立校。1クラス 25～30人。上流家庭子女、特に白人が多い。コンピュータ授業あり。

◇ International School of Port of Spain

授業料：U.S. \$ 1,500 / 学期 (4～6歳)

U.S. \$ 4,900 / 学期 (6～17歳)

対象年齢：4～17

備考：アメリカンスクール。1994年9月開校。総生徒数約80名。

◇ Maple Leaf

授業料：T.T. \$ 5,500 / 学期 (高校生)

T.T. \$ 3,000 / 学期 (小・中学生)

対象年齢：4～17

備考：カナディアンスクール。1994年9月開校。同一家庭の子弟が2名在学の場合、その2番目の子の授業料は10%、3人の場合、3番目の子は15%、それぞれ減額される恩典がある。

(3) 幼稚園

該当情報なし。

5-3 教育関係施設

(1) 図書館

下町のポート・オブ・スペイン市民ホールに付設された図書館がある。そのほか、小さいものがところどころにある。また学校にはそれぞれ図書館はある。

大使館や大使公邸には外務省から送られたもの、日本人の寄贈によるものなど相当数の日本語の図書がある。また、日本人子弟が残していった相当数の子供用図書を日本人会が引き継いで所蔵している。

(2) スポーツ施設

当地でもっとも盛んなスポーツは、クリケットとサッカーで、日本の草野球と同じように各地にグラウンドがあり、夕方盛んに行なわれる。大は国立競技場から、小は草原で行なうものまであり、クラブ形式で行なわれている。そのほかにテニスコートやプールも、公共のものやクラブのもの、ホテルに付設されたものまで各種ある。

5-4 家庭学習

(1) 家庭教師

小学校の先生にお願いして、語学など特別の学習指導をしてもらうことはできる。そのほか、必要に応じて先生を探すのがよい。

(2) 通信教育

当地には日本人学校がないため、日本からの通信教育はぜひ受けた方がよい。離日前に海外子女教育振興財団を訪ねて、適切な方途をとることが望ましい。しかし、

テキスト学習とレポート作成など、かなり努力を要することなので、親の激励と援助が必要である。

- (3) 携行した方がよい家庭用学習教材
必要に応じて持参するのがよい。

6. 家庭の使用人

6-1 運転手

(1) 雇用

前述のように、運転手を雇うことはほとんどないが、必要に応じて所属先機関から運転手をつけてもらうことが一番安全である。

(2) 日常管理

該当情報なし。

(3) 教育指導

該当情報なし。

(4) その他の留意点

該当情報なし。

6-2 メイド/サーバント

(1) 仕事の種類と人数

毎日雇用する場合は、料理や買出し、掃除、洗濯、子守など、経験や能力、信用度により、また仕事の規模により1～2人に任せたり、分担させるなどする。週に1～2回のパートタイムという時は、掃除や洗濯だけという場合が多い。

(2) 雇用

知人の紹介が多い。それが信用保証的な役割も果たしている。選考や契約書の作成はしない場合も多い。トラブルを防止するためと指導のためにも、頼む仕事や勤務時間、休日、休暇、賃金とその支払い日、そのほか必要なことを文章化しておいた方がよい。日当は、経験、年齢、勤続などにより差があるが、日当の平均は50～60T.T.ドル前後である。しかし、普通は月給制で、800～1,000T.T.ドルぐらいである。

(3) 日常管理

該当情報なし。

6-3 庭師、ガードマンなどの雇用

(1) 雇用

いずれも専門としている業者に頼むのがよい。

庭師は、メイド、サーバントとともに家主が継続して雇用している場合と、その賃金を含めての家賃となっている場合もある。家主とも協議して、仕事の内容や賃金を決めるのがよい。

ガードマンは普通、警備保障会社に所属して、そのための訓練を受けている。昼と夜で時間単価が違い、またピストルを所持し使える者と、警棒だけの者でも単価は違う。必要なことは、会社と協議して決めるとよい。

独立家屋では庭園の維持管理も大切な事項で、中流以上の家ではほとんど週1回くらい庭師を頼んでいる。

7. 交通事情

7-1 交通手段

(1) 一般事情

鉄道は現在はない。主要都市や町村を結ぶ国営バスはあるが、本数は少ない。それよりも簡便に利用されているのが、Maxy Taxi と呼ばれる20~40人乗りの小型バスである。路線が決まっていて、多数走っている。タクシーは、多種多様の車が、いずれもH Aナンバーをつけて流している。相乗りで、途中で同じ方向へ行く客を拾いながら、多数走っている。車のナンバー・プレートは車種によって区別され、Hナンバーはタクシー、Pは普通乗用車、Tは貨物車、Rはレンタカーである。

Maxy Taxi の車体は路線別に色分けされている。黄色は主としてポート・オブ・スペイン (P.O.S.) ~Diego Martin 間、赤色はP.O.S.~Arima 及び Sangre Grande 間、黒白はP.O.S.~San Fernando 及びその以南、緑色はP.O.S.~San Fernando 市間である。これらの車はP.O.S. のダウンタウンの駐車場を中心に発着している。

唯一の交通機関であるため車の数は非常に多く、朝、昼、夕の交通渋滞はかなり激しい。特に児童の学校への送り迎えが優先的に考えられているので、学習機関、学校周辺は甚だしい。普通乗用車はP Aナンバー、貨物車はT Aナンバーで、それぞれ後ろにアルファベットが順に入っている。車検はなく、走りさえすれば乗り回しているのが、左右折信号やストップライトが点灯しないのがあたりまえ(手信号が優先する規則になっている)である。高速道では100キロメートル以上で走り、狭い車間に信号なしで割り込んでくるので、よほど注意して運転しないと事故を起こしかねない。

道路は、穴があいたりしているが、田舎道までかなりよく整備されている。日本と同じ左側通行なので、運転はしやすい。しかし、交通マナーは前述のようにあまり確立されていない。車の流れに乗って他に迷惑をかけない、他をイライラさせないことを心がけながら、前後左右に十分用心しなければならない。

(2) 自家用車を利用する場合

終・始業点検は日本の場合よりも丁寧に行なうこと。車検の制度がないため、バッテリー液が蒸発したり、オイルの汚れや量不足が早く起こりやすく摩耗を早めたりする。そのほかオイルの補給なども自分で注意しなければならない。洗車機はないので自分でするか、頼んでやってもらうことになる。

(3) レンタカーなどを利用する場合

レンタカー会社はいくつかある。日、週、月単位で単価が違う。事故や盗難の場合のきまりも、よくチェックし比較検討して決めるのがよい。

大使館関係者は特別料金を設定しているところもある。月極めでは4,000~4,300T.T.ドルぐらいである。

(4) 道路地図

特にドライブ用の道路地図はない。トリニダッドやポート・オブ・スペイン市内の地図は、書店などで売っている。品切れの場合は、Red House (国会議事ビル) の Mapping Division に行くと、たいてい揃っている。

7-2 交通事故

(1) 対処方法

交通事故は、その大小にかかわらず警察情報センター（電話：999）に通報することになっている。人身事故の場合は救命を第一とし、必要な場合は救急車（電話：990、または Ambulance Service 625-3222）を呼ぶ。現場検証や、証人を必要とする時は、即刻999番で警察官を呼ぶ。その必要がない時は当事者同士で次の事項を確認し、24時間以内に事故のあった地点を所轄する警察署にレポートしなければならない。確認事項は、車の番号、運転免許証（氏名、住所、生年月日、免許証番号）、車両保険証（会社名、保険の種類、番号）、事故の発生と損害の状況、自宅の電話番号などである。

一方、大使館、保険会社、自動車会社にも通報して指示、助言を受ける。大使館で事故の状況を英文レポートに作成してもらい、警察署に同行してもらおうと処理手続が円滑に進む。その際、事情聴取をした警察官の番号、氏名を聞いておくこと。これは保険申請に必要である。保険会社へは、事故処理手続の書類を作成、提出する。

これら一切の手続終了後は、交渉など一切の問題処理は保険会社に任せ、当事者同士の接触はしない。状況により物損や休業の補償など、不当な要求をしてくる場合があるので注意を要する。

(2) 救急病院

救急車の手配や大病院は、緊急時の対応や医療機関で述べたとおりであるが、そのほかにも Emergency Clinic の看板を掲げる個人医院もある。特に関係の深い医療機関がなければ、それらに頼ることになる。

(3) 盗 難

当国では車関係の盗難が多く、くれぐれも用心する必要がある。不景気による失業者の増加により治安が悪くなり、コン泥、置き引きから、ピストル強盗までかなりの数にのぼる。なかでも自動車は高価なものであり、解体は簡単で部品の需要も多く、換金も容易ということでねらわれやすい。日本人も何人か被害を受けており、タイヤを外して持ち去られたり、ラジオやカーステレオがなくなったり、車ごと持ち去られてなかの部品がすべてはずされ、ボディだけが砂糖きび畑からみつかったという事例もある。

そこで、盗難防止のために二重三重の装置をする必要がある。まず駐車する場合は、鍵のかかる車庫が望ましい。日中は人目につくところがよい。夜間は運び出せないよう鎖を張る、鉄柱を立てるなどできるようにする。次に、車の鍵はコピーされないように用心するとともに、誰かが扉やトランクを開けたり車を揺ると警報が鳴る装置をつけたり、暗証番号のボタンを押さないとエンジンの始動ができないようになっている装置を取り付けるとよい。さらに、ハンドルとアクセルの間を鎖でつないでロックするとか、アクセルが踏めないように装着する金具もある。タイヤは、車輪のナット4つのうちひとつを凹凸形の合う金具を装着しないとスパナで回せないものにとりかえるなどするとよい。

鍵やロックだけに頼らず、盗難防止の装置を早急につけるとともに、車を停止さ

せエンジンを止めたら必ず鍵を抜きポケットに入れるという習慣をつけた方がよい。停車して1～2分車を離れたすきに乗り去られた、鍵をはずして持って出たが机の上に置いて2～3分席を離れたすきに鍵を持ち去られたという事例もある。

車のなかに、ハンドバッグやカメラ、電気器具など貴重品を目につくようにおいたまま車を離れないことも心がけたい。部屋や引出しの鍵束に車のスペアキーも入れておくと、鍵を抜き忘れてドアロックしたりした時は、役立つものである。

大使館員や専門家の日本からの輸入車はねらわれやすいので、要注意である。

7-3 交通違反

(1) 交通法規

法規集は、簡単なものが本屋で売られている。

日本と同様左側通行であるが、違う点は車検がないので走る車なら危険でも乗れることと、信号は手信号が優先することである。運転手が右側の窓から右折の場合は肩の高さに右手を出し、その掌は進行方向に向ける。左折は右手を時計廻り方向に回転させる。減速・停止は右手の掌を下に向けて上下動させる。ウインカーやストップライトはついているが、点灯しないことが多い。主要道路や市内にはところどころにロータリーがあり、交差する車を交通信号なしに整理している。これは右側車が優先である。

この国では路上駐車がかなり広範囲に認められている。また、市内には一方通行の道路が多い。駐車ができる場所としては、No Parkingの標識のないところと、曜日により道路のサイドが指定されているところ、時間帯を限って禁止しているところがある。No Parkingの標識で月、水、金曜日に左側が禁止だと、右側は火、木曜日が禁止になる。土、日曜日は特別のところ以外は禁止になっていない。したがって駐車する時は、この標識を確認して、他の車の駐車状況を見ればよい。

1995年1月より運転席及び助手席に座する者は「必ず安全ベルトを着装すること。」が義務付けられ、違反者は500T.T.ドルの罰金が科せられることになり注意する必要がある。

(2) 対処方法

この駐車禁止と一方通行進入禁止に対する取締りは厳しく、警官がペーパーホルダーを持って巡回している。違反すると即刻、罰金の指令書が切られる。素直に質問に答え、書類を受け取り指示に従った方がよい。

罰金の支払いは、所轄の警察署まで行かねばならない。また、ときによりレッカー車で運び去られることもある。この場合は、罰金は100T.T.ドルである。

7-4 車の修理

(1) 部品

すべて輸入なので、入手困難な場合もあが、時間はかかっても間に合うようである。先に述べた鍵の紛失やコピーされたおそれがある場合は、全部取り替えることもできる。

危険防止のためにも車両を点検して、消耗、摩耗するものは取り替えたり、補充したりしておいた方がよい。エンジンオイルやそのフィルターの交換は、普通のガソリンスタンドでもやってくれる。

(2) 修理工場

日本車は、組立工場がトヨタ、ニッサン、マツダ、三菱の4社がある。その工場に持って行けば、点検、修理をしてくれる。そのほか中小の修理工場は多数ある。その技術はまさにピンからキリまであり、評判で判断すればよい。

当地組立ての車は新車でも、しばしばトラブルのあることを聞くが、輸入車では特別の場合以外、定期点検していればほとんどトラブルはない。

8. 通 信

8-1 電 話

(1) 一般事情

電話網は、一部のスラムを除きダイヤル直通である。官公庁、会社など、個室で仕事をする地位にある者は、電話で用をすませることがほとんどである。

電話帳も整備されていて、アルファベット順に並べられ、それで住所もわかり、官公庁、学校、職業別の整理もされているので、利用上は便利である。

(2) 国内電話

ダイヤル直通である。国内は6で始まる7桁の番号である。電話帳に一覧表で出ている。時刻による料金の違いはない。

(3) 国際電話

ダイヤル直通である。国際電話は北米・カナダ・カリブ諸国及びドミニカ共和国は1を廻し、その他の国は01を回してから地域別、国別の番号を回し、次に国内番号を回す。日本の場合は、0181に続けて国内の最初の0を省いた番号を回す。通話料は国によって違う。電話帳に一覧表が出ている。時刻による料金の違いはない。

8-2 電 信

(1) ファクシミリ

市内にTextel（電電公社）があり、自由に利用できる。例えば、日本向けファックス1ページ20T.T.ドルである。

(2) テレックス

テレックス、ファクシミリとも整備されている。

(3) 電 報

該当情報なし。

8-3 郵 便

(1) 一般事情

日本ほど正確、迅速ではないが、ポストもあり、各戸配達も何日かに1回行なわれている。以前よりかなりよくなったとはいえ、紛失したり、1～2ヵ月遅れて着いたりすることもある。日本や国外から発送されたものが到着せず、後日、電話などでそれを知ることもある。したがって重要書類は書留にすること。または、1枚だけなら、ファクシミリだと速く確実である。大使館では私書箱（P.O. Box1039）を持っていて、毎日担当者がとりに行っているのので、専門家は住所を大使館気付にしている。郵便は日本から5～7日ほどで着く。

(2) 課 税

小包は、日本からの場合、航空便で10日くらい、船便の場合は早ければ1ヵ月、長くて2～3ヵ月かかる時もある。郵便局から到着通知が来たら、小包郵便局へそのはがきを持って受け取りに行く。配達はされない。1週間以上そのままにしておくと、保管料をとられるので注意すること。

受け取りに行った時、税関吏の内容検査がある。麻薬や危険物など輸入禁止品目以外は、その価格と運賃に一定率をかけた課税が行なわれている。細かい規定が

あつて、税関吏もそれをみながら額を決めているようである。日本食などは高額でなくとも、運賃と合算して船便でも日本の価格の4～5倍になる。

9. マスコミ

9-1 新聞

(1) 主な日刊紙

いずれも英字新聞である。日刊紙は Trinidad Publishing Company Ltd. が刊行する「Trinidad Guardian」(月～金曜日 1部 1.25T.T. ドル)、「Sunday Guardian」(日曜日、1部 3.00T.T. ドル)、「The Evening News」(1部 0.50T.T. ドル)、「Newsday」(月～金曜日 1.00T.T. ドル)、「Sunday Newsday」(日曜日 2.00T.T. ドル)、「Mirror」(金曜日、日曜日、2.50T.T. ドル)、「Sunday Punch」(2.50T.T. ドル)、「Weekend Heat」(2.00T.T. ドル)、および Trinidad Express News Papers Ltd. が刊行する「Express」(1部 1.50T.T. ドル)がある。

週刊誌は「The Bomb」など数誌がある。

日刊紙の朝刊は、国民の祝日の翌日が休刊日になる以外は、毎朝戸別に配達される。それ以外は立売りである。

購読は、家主などを通して申し込み、半年極めで請求がきた時、当地通貨で小切手などにより振り込めばよい。

(2) 本邦日刊紙

『朝日新聞』および『日本経済新聞』がOCSによりハワイから航空便で送られてくる。したがって、3～4日遅れの到着となる。週刊誌など雑誌の購読も含めて、申し込みは次のところで行える。

OSC Honolulu Office

住所：C/O East West Associates Ins. 1020 Auahi St., Bldg. 5 Honolulu, Hawaii 96814

TEL：808-523-9307

現在のところ当国で購読しているのは、大使館および1～2の商社だけである。

(3) 欧米紙

主なものは後述の書店に申し込めば、取り次いでくれる。店頭販売しているものもある。

9-2 ラジオ

(1) ラジオ放送局

ラジオ・トリニダッド(中波730キロヘルツ、FMステレオ95メガヘルツ)、およびNational Broadcast Services(NBS)ラジオ(中波610キロヘルツ、FM100および106メガヘルツ)の2局がある。このほかFM局は93.5、95.1、96.0、97.0、98.9、100.0、103.0、105.0、106.0、106.1各メガヘルツの10局がある。

いずれも番組が毎日新聞に出ているが、ニュース以外は音楽が多い。

(2) ラジオジャパン

南米東岸フランス領ギアナのモンシネリ送信所からの中継放送が始まって、日本からの放送の受信状態がよくなった。アンテナを出さなくても受信できる。ときにより雑音や混信があったり、周波数の微調整を必要とすることもあるが、いちどダイヤルを設定しておく、恒常的にニュースを中心とした放送を聴くことができる。

周波数は11895キロヘルツ、9685キロヘルツで、日本語の放送は午前6:00、午後6:00および午後10:00からで、英語放送は午後11:00からである。短波ラジオ

の持参をすすめる。

(3) 任国で聴取可能なその他の外国放送

イギリスのBBC放送、アメリカのVOA放送が聴ける。

短波放送のダイヤルを回していると、アメリカその他の英語はもちろん、中南米からのフランス、スペイン、ポルトガル各国語の放送が入ってくる。各国語が理解できれば、いろいろな情報源になる。

9-3 テレビ

(1) テレビ放送局

Trinidad & Tobago Television (TTT) 放送局があり、日常は2あるいは13チャンネルでの1放送であるが、スポーツなど特別の放送がある時は、9または14チャンネルでもうひとつの放送があることもある。チャンネルの選択は、地域により映像が鮮明な方で視聴することになる。その他AVM(4または16チャンネル)、CCN(6または18チャンネル)の計3放送局がある。

朝5:40から夜12:30までのカラー放送で、特に夜7:00から1時間のニュースはその日の国内の出来事や海外ニュースも放送され、速報と内容も充実している。そのほかは、スポーツ、ドラマ、ドキュメントなどもあるが、アメリカの番組も多い。パラボラアンテナと受信機があればアメリカのCNN、そのほかの3~4局の放送も受信できる。

ケーブルTVは会社と契約して多くの放送を選択受信出来る。ポート・オブ・スペイン市内には契約会社が次の3社がある。

A. J. Cable Enterprises Ltd.

所在地：37 Wrightson Road

Tel: 623-3304

Cableview Ltd.

所在地：88 Edward

Tel: 624-6382、624-6394

Rainbow Cable Vision

所在地：West Mall W/Moorings

Tel: 637-9074、637-4642

(2) テレビ受信

ポート・オブ・スペイン市内ならば、室内アンテナで受信できる。地形の関係で大部分の家が屋外アンテナを立てている。

家具付き住宅では、テレビも家具のなかに入っている場合もある。もしない場合は、レンタルもあるが、日本から持参するとよい。

10. 教養、娯楽、趣味、スポーツ

10-1 映画、演劇

(1) 映画館

新聞広告をみると、トリニダッドには29の映画館がある。映画の話はあまり聞かないのでよくわからないが、アメリカ、イギリス、インドなどの製作のものが週替わりで上映されている。主な映画館は次のとおりである。

Vistarama

所在地：St. Vincent St., Port of Spain

Globe

所在地：St. Vincent St., Port of Spain

Deluxe

所在地：Keate St., Port of Spain

Valpark

所在地：Valpark Shopping Plaza

(2) 劇場

劇場はない。

10-2 出版・書籍

(1) 一般事情

専門的な学術書（または定期刊行物）は、西インド大学、あるいはカリブ諸国の組織を通して各種出版されているが、一般的教養書、雑誌などについてはあまり見聞きしない。『タイム』や『ニューズウィーク』、その他のアメリカ、イギリスの雑誌、週刊誌など、また料理、園芸、スポーツ、趣味などの書籍は、店頭で販売されている。

(2) 書店

主なShopping Mall（Plaza）には、だいたい書店がある。書名、発行所などがはっきりしていれば注文購入も可能である。直接日本の書店や知人に依頼して郵送してもらう方が確実である。主な書店は次のとおりである。

R.I.K. Services Ltd. (Trinidad Book World)

所在地：16 Frederick St., Port of Spain

TEL：623-4316

Stephens & Johnson Ltd.

所在地：8-10 Frederick St., Port of Spain

TEL：623-4141

Readers World

所在地：Level 3, Long Circular Mall, St. James

TEL：628-1562

Cosmic Book Services Ltd.

所在地：Westmall Shopping Plaza, West Moorings

TEL：633-4318

10-3 語学学習

(1) 語学学習施設

教育省が管理する School of Language というのがあり、英語、スペイン語、フランス語のコースがある。場所は、No. 6 Alcazar St., New Town, Port of Spain で、電話は 628-4600～3 である。詳細は当該施設に尋ねられたい。

(2) 家庭教師

個人的に探し、依頼すれば引き受けてくれる人はいる。特に、小学生では英語がわからないと授業についていけないので、放課後などの時間に特別の補習をしてもらう必要がある。

10-4 文化活動、文化施設

(1) 一般事情

小さい国であるため、施設は規模も数も小さい。イギリスの植民地としての長い歴史のなかで作られた文化があり、お祭り好きな人々である。コンクールを含めて大小さまざまな催し物が、いつもどこかで行なわれている。

その代表的なものが、毎年2月に行なわれるカーニバルである。終わればすぐ次の年の準備を始め、国民の半分近くが参加して仮装を身にまとい、スチールバンド(後述)の伴奏にあわせて3日3晩踊り狂う祭りである。欧米からの観光客も、この時期にかなり集まる。

そのほか、Exposition、Exhibition、Competition など、各種が行なわれ、不景気を脱して経済を活気づけようとしているようすがうかがわれる。1988年当初、カーニバル・エキスポというのが1ヵ月近くにわたって行なわれ、カリプソとスチールバンドの歴史が展示されていて興味深かった。

National Museumがあり、イギリス時代に建てられた古い建物だが風格はある。内容は、石油掘削の歴史や装置の展示、そのほか絵画、彫刻などもおいてある。ときどき外国の文化展なども開かれ、日本の凧、こま展も開かれた。入場は無料である。

National Museum

所在地：Frederick St., Port of Spain

TEL：623-7116

動物園は、Emperor Valley Zoo というのがあり、ライオン、トラ、ヒョウなどの猛獣から猿類、ワニ、鳥類、爬虫類など、小規模ではあるが、ひとつおりの揃っていて、わりあい整備されている。水族館も併設されている。

動物園と隣接して国立植物園がある。かなり広大な回遊式の庭園で、一隅にはガラス室もあり、ラン類、観葉植物なども培養され、樹々にはラベルもつけられて、手入れもわりあい行き届いている。動物園とあわせ、1日ゆっくり楽しめるところである。

この動物園と道路をはさんだ反対側、市の中心部にあたる位置に、Queen's Park Savannah という1周5キロメートルの芝生公園がある。このなかには競馬場もあり、クリケットコートもあって、カーニバルなど各種の催し物もここで行なわれる。その周囲を散歩やジョギングする人も多い。

Emperor Valley Zoo

TEL : 622-3530

特記事項：入園料は大人 2T.T.ドル、子供 1T.T.ドルである。

National Botanic Garden

TEL : 622-4221

特記事項：入園は無料である。

(2) 日本・任国友好協会などの有無と活動の内容

日本とトリニダッド・トバゴとの特別な友好協会はない。しかし、日本人会の活動はかなり以前から活発で、各種スポーツの催し物や機関紙の発行などをしてきた。最近、日本人の数が少なく（約36人）なっている。活動は数回のピクニックなどリクリエーション程度ではあるが、交流は親密である。この日本人会とトリニダッド・トバゴとの交流の催しが行なわれることもある。

日本には、トリニダッド・トバゴに在留した人々の集まりがあるが詳細は不明である。

(3) その他の文化活動、文化施設

200~300人以上集まれる催し物会場は、Queen's HallとCentral Bank Auditoriumだけである。そのほか、大きいホテルには50~200人収容できる集会室がある。

これらの施設では、大小各種の音楽会、演奏会、バレエ公演、映画会、講演会、シンポジウムなどが行なわれるが、あまり多くはない。これらの開催情報は、テレビ、ラジオ、新聞から得ることができる。

10-5 写真、ビデオ

(1) 写 真

カメラは、まだ一般家庭に行きわたっている状態ではない。しかし、大きなモールには写真器材店があり、即日現像のラボラトリーを持っているところもある。

フィルムは、フジ、コダック、サクラがあり、12枚撮りが24T.T.ドル、24枚撮りが28T.T.ドル、36枚撮りが38T.T.ドルである。その他、カラー、白黒、特殊サイズもある。DPEは遅くとも1週間以内にはできあがる。そのほか、乾電池などカメラ用小物も売っている。しかし、価格は高く、プリントがEサイズ1枚邦貨40円近である。フィルムも同様なので、日本でまとめて購入し、携行機材として持参した方がよい。

(2) ビデオセット

ビデオセットおよびテープの調達は当地でできる。ベータタイプも多いが、主流はVHSである。家具、電器、雑貨など、輸入商品を扱う店で売っているが、価格、品質の点で日本からの持参がよい。

(3) ミュージックテープ

カセットテープもミュージックテープなどと一緒に売られており、またクラブもあってレンタルできる。各種広報用のテープが数十本大使館にもある。

レコードの販売店は、モールなどに大きなものがあるが、ミュージックテープはかなり多くの店で販売されている。

10-6 音楽鑑賞、演奏、民族楽器

(1) 音楽会、コンサート

たまにサーカスが巡回してくる。催しがある時は、新聞広告に掲載される。

カーニバル・シーズン、クリスマス・シーズンになるとかなり行なわれる。そのほか、たまに海外の演奏家の来演もあるが多くはない。多いのは、カリプソ、スチールバンドである。コーラスグループの演奏が、スチールバンドと一緒に行なわれることもある。

会場は、次のとおりである。

Queen's Hall

所在地：1-3 St. Ann's Rd., St. Ann, Port of Spain

TEL：624-1284

Central Bank Auditorium

所在地：Eric Williams Plaza, Independence Sq., Port of Spain

(2) コーラス、演奏グループ

教会所属、学生団体、企業支援のものなど、いくつかある。日本人の参加者はいない。

(3) ピアノなど

購入、レンタルとも可能である。台数は少ない。レンタルは、月100ドルほどである。

日本人の間では、大使公邸のほか2台所有されている。運送は不慣れである。

調律師はいる。教師は日本婦人であるため、常駐ではない。

(4) レコード

ショッピング・モールにレコード店があり、多数販売している。しかし、クラシックよりポップス関係のものが多し。

(5) 民族楽器

本来の土俗的民族楽器ではないが、最近30～40年の間に発達したスチールドラムがある。これは、第2次世界大戦時に駐留した米軍が残していったドラム缶の空き缶を輪切りにして底をへこませ、たたいたのが始まりである。底の深さおよびへこませ方、へこませた位置により、音色、音階が違い、底の深い(ドラム缶1本分)低音から、浅い(20センチメートルぐらい)高音まで、あらゆる音の表現ができる。2本のばちも太いものからえんぴつぐらいのものまで、先にゴムを巻きつけて、妙音を出す。独奏から30～40人の大編成まであり、クラシックからカリプソまで広いレパートリーの演奏は見事である。

この演奏をするのは、主としてアフリカ系の人達であって、クラブのある中学校もあり、また地域の同好者が集まったもの、企業がかかえるプロ集団もあり、海外演奏をする楽団もある。

一方、インド系の人には、タサと称する打楽器を持っている。これは焼物や植物(ひょうたん)の半球に羊の皮を張ったものである。3～4人が1集団となり、大太鼓も加わって、お祭りや結婚式の時など、にぎやかな演奏をする。

この両者とも、毎年、企業スポンサーのコンクールがある。

(6) その他の楽器

警察音楽隊が演奏会を開くことはある。

10-7 手芸、絵画、美術工芸

(1) 手 芸

刺しゅう糸や毛糸、編針など手芸用品はモールの雑貨店で売っている。YWCAのカルチャーコースで習うこともできる。

当地の手芸、民芸品として特徴的なものはない。最近、木彫りや皮革加工あるいは陶芸品におもしろいものがみえ始めている。しかし、デザインはまだ稚拙であり、質もあまりよくない。

(2) 絵画、美術工芸

モールやホテルのアーケードに店がある。優れたものは少ないが、ときどきのぞき、探していると、おもしろいものがある。

Fine Art Ltd.

所在地：West mall

TEL：632-0757

所在地：Valpark Plaza

TEL：663-3091

10-8 趣 味

(1) 園 芸

熱帯の観葉植物は豊富である。市内には、園芸用品種苗店もいくつかある。庭先園芸は観賞用のみならず、野菜、果樹も含めて食糧生産省が奨励、指導している。

園芸協会というのがあって、年1回、4月頃野菜、果実を含めたFlower Showを開催し、盛大な品評会も行なわれる。ラン協会もあり、こちらは10月Orchid Showが行なわれている。

ポート・オブ・スペインの北郊外にサンタ・クルスというところがあり、大規模な観賞植物供給農場（Undercover Vegetables TEL：676-8201）などがある。

(2) 釣 り

海に囲まれたこの国には、工場立地や都市近辺を除いて、たくさんの海釣り場がある。川では投げ網が行なわれている。ポートフィッシングもできる。釣り道具も、海釣り用を各種売っている。

One Stop Shop (Dansteel Ltd.)

所在地：Churchill Roosevelt Highway

TEL：642-1772

10-9 娯楽、遊戯など

(1) 娯楽、遊戯、ゲーム

娯楽、遊戯の類いは少ない。カジノは昨年から1ヵ所開業している。日本人の同好者は碁、将棋、マーじゃんをしている。

(2) レジャーランド、娯楽場、遊園地

該当情報なし。

(3) ディスコ、カラオケ

該当情報なし。

10-10 スポーツ

(1) ゴルフ

いくつかのゴルフ場がある。日本人が主として利用するのは、次のところである。

St. Andrews Golf Club

Moka, Maraval TEL 629-2314

メンバーは年会費3,500T.T.ドル、ビジターはメンバー同伴で1回150T.T.ドルである。入会金はいらぬ。そのほかにも、もっと安いところもあるが、施設はよくない。

用具一式は、当地でも調達が可能であるが、価格の点で、日本からの持参がよい。

プレーは、日中は暑いので、早朝か夕方がよい。キャディーは1コース30T.T.ドルである。小物の紛失や盗難が多いので、注意を要する。

(2) テニス

いくつかのテニスクラブがある。ホテル所属のものから、プライベートやパブリックのコートまで、料金はいろいろである。

Hilton Tennis & Swimming Clubは個人の場合、入会金400T.T.ドルと年会費400T.T.ドル、カップルの場合は、それぞれ500T.T.ドルと550T.T.ドル、ファミリーの場合は、600T.T.ドルと650T.T.ドルになっている。

(3) 水泳

スイミングプールは、各ホテルのほか公共プールやYMCAのものがある。それぞれ浄水施設もあり、監視員もおり整っている。

(4) その他のスポーツ、用具、ウェア

当地でもっとも盛んなのは、クリケットおよびサッカーである。地域にクラブなどもあり、夕方など各地で楽しんでいるが、日本人にはあまりなじみがない。

武道としての空手、柔道がかなり行なわれている。特に空手は、子供から大人まで各地にクラブがある。そのほか、剣道を日本人および当地の同好者数人がけいこしている、韓国のテコンドー・クラブもひとつある。

これら武道の用具や着衣は、下記の店で売っている。

Black Belt Martial Arts Supplies

所在地：42-45 Frederick St., Port of Spain

TEL：622-2368

(5) スポーツクラブなど

Trinidad Country Club (Champs Elysees Rd., Maraval TEL：622-3470) というのがあり、昔はゴルフ場も経営していたが、今はスイミングプール、テニスコートだけである。日本人で入会している人もいる。しかし、入会希望者が多く、資格審査や入会制限をしている。

10-11 子供の遊び

広場でクリケットのまねごとや凧あげをしているのをみかける。そのほか自転車乗り、スケートボードなどで住宅街路上で遊んでいるが、危険もある。集合住宅で

は子供用のプールもある。

隣近所の子供と一緒に遊ぶのが、言葉を覚える早道である。また、子供を通して親の交流も生まれるので、遊具などは買い与えて危険のないよう遊ばせた方がよい。遊具は、市内のおもちゃ店やモールなどで売っている。

テレビでセサミストリートは放映しているが、日本のような漫画もある。ビデオを日本から持参してみせている人もいる。子供同士はすぐ友達になる。

11. その他のサービス

11-1 金融機関

専門家は、外交官と同様、銀行に外貨口座を持つことができ、外貨の購入が自由にできる。

口座を閉鎖する場合、口頭で口座の閉鎖を申し出れば所定の手続で送金または、閉鎖することができる。

11-2 コンピュータ

該当情報なし。

11-3 美容院・理髪店

美容院は、各モールや主なホテルにあるほか、市内にもある。しかし、技術的にはばらつきがあるので、邦人、その他の評判などを聞いて、紹介してもらう方がよい。

料金は、カット、シャンプー、パーマー式で80～100T.T.ドルである。予約してから行く方がよい。

理髪店は、美容院同様、モール、ホテル、市内各所にあり、技術、施設などはいろいろある。価格も25T.T.ドル前後から50T.T.ドルくらいまでである。これは髪を刈るのと襟首を剃るだけで、顔剃りや洗髪は別料金である。たいては、Hair cut onlyですませる。

化粧品などは、欧米製のものが売られている。特に香水や口紅などは日本より安価であるが、必要に応じて使い慣れたものを日本から持参した方がよい。

12. 観 光

12-1 地方旅行上の留意点

地方旅行といっても、小さい国なので、トバゴ島行き以外は車で日帰りできる範囲である。したがって、特に規制はない。道路も比較的よく整備されていて、地図を頼りに旅行ができる。

最近、治安があまりよくないので単独での遠出は避けた方がよい。車何台かでの行動が望ましい。

首都ポート・オブ・スペイン市内外にも歴史的な建築物、公園、展望台など見どころはあり、スペイン、イギリスの植民政策がしのばれる。その地方都市として、サン・フェルナンド、アリマ、サングレ・グランデなど地域の歴史と産業を反映した町がある。

12-2 主要観光地・保養地ガイド

トリニダッド本島では、周辺の海岸に海水浴場として政府観光局が設置した施設（休憩所、シャワー、便所など）が何ヵ所もあり、地元の人でいつもにぎわっている。しかし、海外からの観光客を誘致するほどの宿泊などの施設はなく、特産品、民芸品、郷土料理といわれるものは見当たらない。

その点、トバゴ島は、本格的観光保養地として、ホテル、ビーチ、ゴルフ場などが整備されている。トバゴの主なホテルは、次のとおりである。

Mt. Irvine Bay Hotel

TEL：639-8871、8894

備考：ゴルフ場およびミニ博物館がある。

Turtle Beach Hotel

TEL：639-8512、8513

Grafton Beach Resorts Hotel

TEL：639-091、0271

備考：若い人向きの明るいホテルである。

毎年1回5月上旬頃、Tobago島の南端、Pigeon Pointを基地にしてInternational Game Fishing Tournamentが開催されるので参加したり、マグロやカジキ類の計量模様を見物するのも楽しいものである。

12-3 旅 行

(1) 自動車

トバゴ島へ渡る以外は、すべて自動車である。長距離バス、鉄道はない。交通標識も、主要道路は整備されている。

ガソリンスタンドは地方へ出ると少ないが、車で1時間の距離ごとにはある。ガソリンは1リットル当たり2.75T.T.ドルである。

(2) バス

該当情報なし。

(3) 鉄道

該当情報なし。

(4) 航空機

トバゴ島へ渡るには、飛行機か船である。飛行機は、毎日10便（BIWA）出ている、所要時間は30分、料金は往復200T.T.ドルである。

(5) 船

船は、Panoramaという港湾局が運営する国有のフェリーポートがある。その航行スケジュールは毎月末に翌月分が決まるが、だいたい土曜日を除きポート・オブ・スペイン発が午後2:00、トバゴ発が午後11:00、いずれも所要時間は約5時間である。ただ、日曜日はポート・オブ・スペイン発午前11:00になっている。

料金は、大人1人往復55T.T.ドル、キャビンは2人160T.T.ドルとなっている。自動車は、重量により85T.T.ドルから180T.T.ドルまでである。

航空券、乗船券はいつでも買えるが、車をフェリーポートで運ぶ場合は予約が必要である。

12-4 旅行代理店

かなりの数の旅行代理店が主要都市にあり、アメリカ（マイアミ、ニューヨークなど）、カナダ（トロント）、イギリス（ロンドン）、ヴェネズエラ（カラカス）などへのツアーを計画し、新聞広告をしている。また期日指定、キャンセル無効、往復の安い航空券（エクスカーション）もある。したがって、旅行代理店を利用する場合は、いくつか比較、検討した方がよい。

国内観光では、トバゴ島へ行く以外には、旅行代理店を利用することはない。主な旅行代理店は、次のとおりである。

Chartours International Ltd.

所在地：137 Duke & Edward St., Port of Spain

TEL：625-1917

Trevi Tours & Travel Service

所在地：121 Western Main Rd., St. James, Port of Spain

TEL：622-6220

Atlas Travel Bureau

所在地：13 Abercromby St., Port of Spain

TEL：623-6255

12-5 ホテルなど宿泊施設の手配

電話で直接予約ができる。国内は、カーニバルの時期以外はかなり余裕がある。海外の場合は、航空券の予約、購入も含めて旅行代理店を通した方が便利である。その際、ツアー以外は何度も予約の確認をしないと、航空券以外は忘れられることがあるので要注意である。

13. 治安、緊急時の心得

13-1 暴動、クーデターなど

(1) 緊急時の連絡

特別の取決めはないが、大使館、日本人会を通して電話、あるいは口頭で連絡、伝達される。避難などは、大使館、あるいは大使公邸が拠点となる。

13-2 強盗、盗難

(1) 一般的治安状況

最近、経済的不況、失業者の増加などにより強盗、盗難事件が多く報道されている。日本人にもその被害があり、その状況についていろいろな機会に情報交換しながら、各自が注意をする必要がある。

(2) 防犯対策

アパート、マンションなどは、常時ガードマンを配置して出入者をチェックしているが、客を装ったり、フェンスを乗り越えて侵入した事例も聞くので、駐車中の車の用心や、室内への出入口には少々不便でも常に施錠しておくことが必要である。

独立家屋の場合も同様であるが、犬を複数飼ってよく訓練しておく、警報装置を設置するほうがよい。家の点検を行ない、侵入されそうなところはその防止策を講じておくこと。鉄格子は都市部の場合すべての家についているが、弱いものには補強をしたり、出入口には2つ以上の施錠をしたりする。侵入するのに音がしたり、手間がかかったりするようにしておくのがよい。

(3) 被害時の心得

身体の安全確保が第一であるので、無理にさからわない方がよい。そのために若干の金品を用意しておくことも必要である。

事後には、即刻、警察（電話999）、大使館（電話：622-5838、6105、公邸は622-2339）、あるいは身近な日本人に連絡し、しかるべき援助を受けること。

13-3 火災、風水害、地震

(1) 一般的災害発生状況

乾季には、山火事がよく発生する。しかし一般家屋の火災は皆無ではないが、密集していないため大火災はない。消防署（電話990）も都市にはある。

自然災害は、時に雨季の強雨による低地の洪水や傾斜地の地すべりがあるが、一般住宅地ではほとんどない。大西洋のハリケーンの通路から、少しはずれていることも幸いしている。地震はまれに弱いものを感じることもある。

(2) 防災対策

住居選定にあたり、地域の災害発生状況もチェックの一項目である。

(3) 被災時の心得

もし被災した場合は、他の緊急時と同様、関係の機関や日本人に連絡し、援助を受ける。

保険は、長期滞留者や公共家屋以外は、加入していないので注意すること。

14. 出入国手続および帰国手続

14-1 入 国 時

(1) 空港施設概要

小さい空港で、2階にあるのは送迎デッキとレストランだけで、あとのすべての施設は1階である。

赴任時の出迎えは大使館により行なわれることもあり、その場合のコンタクトポイントは、入国審査室出口となる。公用旅券の場合も通関検査を受ける。

(2) 入国手続書類

手続書類の記入上の留意点は特にない。

入国査証の取得は東京ではイギリスの領事館が代行しているため3ヵ月しか発給されない。入国後早い機会に任期いっぱい査証延長手続をとる必要がある。この査証は公用であるので、アメリカとともに数次になっており、出入国は何回でもできる。

(3) 入国審査

書類に正しく記入してあれば、特別な質問はないが、AIフォーム関係書類のコピーを持参することが望ましい。入国の目的が、当国政府の要請による技術援助であることを強調する。任国外旅行など再入国の場合は、予め再入国ビザ（Re-entry Visa）を取得しておくか、政府発行のAmendment letterのコピーを持っていると手続が早い。

(4) 税関検査

Negative List にあげられているものは、検査がなくても持ち込んではならない。しかし、このリストには、輸出入政策上あげられているものもあり、自動車、その他の生活必需品は、到着後6ヵ月以内なら無税で持ち込むことができる。ただし、引き取りには1ヶ月以上要することもある。

(5) 空港内での留意点

飛行機から出てきた荷物が重い場合や車輪がついていない場合、数が多い場合は、通関台まで無料のカートを利用することができる。しかし、通関台から外はポーターがカートを持ってきて車まで運んでくれる。料金は1個2 T.T.ドルである。自分で運べるなら利用しなくてもよい。

通貨の交換は、朝6:00から夜10:00まで空港内の銀行でできる。ホテルでもできるが、いくらか率は悪い。

(6) 空港からの主な交通手段

赴任時は、大使館の公用車で迎えてもらえることもある。それ以外は、タクシー利用である。協定料金が決まっているが乗車前に行く先を告げ、料金を確認しておいた方がよい。深夜、早朝は20%高である。

(7) その他の留意点

赴任時のホテル予約は、大使館で行なう。大使館依頼の料金は、若干サービスされている。

赴任時の到着予定期日、時刻は、出迎者や自己の休養も配慮して、都合がつけば早朝、夜間、土・日曜日を避け、また週末に近い日が好ましい。

14-2 出国時

(1) 出国時の概要

チェックインカウンターは航空会社ごとに違うが、最近、積込み荷物の検査がかなり厳しいので、出発前1.5～2時間と早めにチェックインした方がよい。

(2) 出国手続上の留意点

公用旅券及び一般旅券共に再入国をする場合には再入国ビザを事前にとっておくこと。再入国できない場合がある。動植物を持ち出す場合は、空港にある施設で証明書を発行してもらえる。

また、出国審査の時に、一般には大蔵省の発行する納税証明書がないと査証がもらえない。専門家の場合は公用旅券であり、納税義務はないのでその必要はない。

空港利用税は一般旅券の場合、1人1回75T.T.ドルである。公用旅券の場合は免税である。

14-3 帰国手続

(1) 帰国時に必要な事務手続

専門家の場合、特別なものはない。

(2) 車の処分

帰国時期が明確になった段階でかなり早い時期から、車の処分に関する具体的な詰めをしておいた方がよい。

中古車の査定相場があり、その価格は輸入時の代理店に出してもらえる。販売を代理店に頼む場合は、10%の手数料がかかる。そのほか、新聞広告を出すとかかなりの引き合いがあり、そのなかから信用できる者に決めるということもある。

売却手続は、外務省の売却許可が必要である。持ち込んだ時に持ち帰ることを前提として無税輸入の許可が外務省から出ている。売却するための許可と、相当の物品税、輸入税を支払わなければならない。

(3) 家財道具の処分

必要ない家財は、譲渡するかまたは売却する。売却に関しては、適当な価格をつけて知人に売るまたは、ガレージセールに出すこともできる。

必要な家財は、日本へ輸送する。その方法は、郵便か運送会社の航空便か船便ということになる。郵便は10キログラム以内の小包ということであり、包装は自分でしなければならない。船便の場合は1個312ドル、航空便で1,010ドルである。郵便以外は木箱詰め、あるいはコンテナ利用ということになる。量によるが、一番小さいコンテナで船便の場合、諸掛かり込みで2,500ドルほどである。

輸送業者は、後述のとおりである。

公品はリストを作って、保管を後任者に引き継ぐ。後任者がいない場合は、カウンターパートが保管することになる。

(4) 住宅の明け渡し

すべて契約に従って明け渡しことになる。通告は1ヵ月以上前、次の借り手がみにきた時は室内をみせるなどの契約になっているのが一般的である。敷金(デポジット)は最終月の家賃にあてられるが、借家中の破損の補償にあてられたり、そ

の他の費用の弁償とされることもあるので、通告の際に後でトラブルが起こらないよう十分協議しておく必要がある。

(5) 外貨持出し規制

該当情報なし。

15. 私財の輸送、引き取り、購入

15-1 家財道具

(1) 輸送業者

多くの業者やカスタムブローカーがいるが、大使館関係者は次の業者に頼んでいる。木箱詰めなどまで請負ってくれる。

Henderson Shipping Service

所在地：Angostura Bldg. 6 George St., Port of Spain

TEL：423-4167

(2) 輸入手続

家財、車などの海外輸送はいずれも輸出入ということになるので、専門家の場合は免税手続をとる必要がある。専門家の場合は受入省庁が担当であるが、手続に不慣れのため、用紙の入手作成から手続終了までかなりの日数がかかる。早めに先方に督促をすることが必要である。なお、農業・土地・海洋資源省の場合は Planning Division が担当してくれる。

15-2 自動車

(1) 一般状況

自動車は、当国で組立生産の車及び輸入車の販売が行われている。しかし、外交官や公用入国者は、自国生産の車を一定期間内（専門家はプロポーザルにより6ヵ月以内）ならば無税で持ち込める。しかし、売却の時、一定期間（専門家は5年、外交官は2年）以内であれば、輸入税を払わねばならない。

日本からの輸入がよいか、当地での購入がよいかということになると、一概にはいいにくい。輸入車の方が当地組立て車より同じ車種でも質がよく、トラブルがはるかに少ない。しかし、高率の輸入税を考えると、当地車の方が手軽ともいえる。しかし、中古車として売る場合は、輸入車の方が高く売れ人気もある。

(2) 輸入手続

日本で注文した場合、発注生産なので、見積もり、契約（代金支払い）、生産（1ヵ月半）、船積み輸送（1ヵ月半）、通関、整備、入手（1ヵ月）と約4ヵ月余かかる。

輸入手続は、船荷証券、送り状、荷物明細表が到着した段階で、窓口省庁で無税受取承認を得てもらい、輸入代行業者に依頼する。業者は、車種により次のとおりである。

なお、中古車など日本から発送の場合は、赴任が決まった時点で早めに発送しておくのがよい。

< TOYOTA >

Amar Auto Supplies' 85 Ltd.

所在地：177 Tragarete Rd., Port of Spain

TEL：622-2813

< NISSAN >

Neal & Massy Motors

所在地：Lady Young Rd., Port of Spain

TEL：674-4200

< MAZDA >

Southern Sales & Service Co.Ltd,

所在地：22 Kew Place, Port of Spain

TEL：625-2401

取扱い手数料や整備費など合計すると、約1,500ドルくらいかかる。

港に到着後1～2週間も岸壁に放置されるので、通関期間はできるだけ短くした方がよい。家財同様、手続督促の働きかけを繰り返し行なう方がよい。

(3) 任国での購入

専門家あるいは大使館員から専門家が赴任後6ヵ月以内に自動車を購入する場合、売却する方は前述の期間内でも税金を払う必要はない。

ディーラー、その他一般から購入する場合は、窓口省庁の免税許可を得なければならないので、その手続に20日間くらいは必要である。

(4) 自動車登録

自動車登録に必要な一切の手続は、業者に任せた方が簡単である。手数料やプレート代金など、総額で1,200T.T.ドルくらいかかる。

第1回は免税であるが、第2回（毎年、年初めから3ヵ月以内）以後は車の重量により200～250T.T.ドルの登録税を払わなければならない。外交官は、免税されている。なお、車検はない。

(5) 免許証取得

国際免許証は、当国では発行後1年間有効であるが、この国の免許証を取得する際、3ヶ月以内であれば実技試験は免除され、筆記試験のみ受験すればよい。ただし、それ以後の期間では、実技・筆記の双方を受験しなければならないので、できる限り早い時期に取得することが望ましい。

国際免許からこの国の免許証の取得のための手続は、下記の手順で行われる。

1.Licensing Office (Wrighton Rd. Tel：625-2111) 内の「Casher」で法規集 (The Highway Code；10T.T.ドル) と、試験問題集 (Light Motor Vehicle Driver's Examination Study Guide；5 T.T.ドル) を購入し、試験に備える。

2. 申請に必要な書類

(1) Application for Driving Permit/Endorsement (前記Office内の「Information」の窓口で入手) に必要事項を記入。

(2) Passport

(3) 写真2枚；パスポート用サイズ、グリーンのバック・カラー (前記Office隣の小さなPhoto Studioで直ぐ撮影出来る、20T.T.ドル)

(4) 国際免許証

3. 申請

上記 (1) ~ (4) の書類を Regulation Room カウンターに提出、係員はパスポート、ビザの有効期限などを審査した後、筆記試験日の予約票が交付される。これは希望の日時に調整して貰える。

4. 筆記試験

予約日に前記 Regulation Room にて受験する。試験は土・日・祝祭日を除いて毎日午前 8 時半から午後 3 時頃までの間受験出来る。試験場に辞書の携行が許される。

5. 試験終了後

試験終了後、待機すること 10~15 分後に合格者の発表がある。合格者には手数料支払い用紙が渡され、前記の Office の「Casher」で手数料 (20T.T. ドル) を支払って、その領収書を再び Regulation Room の窓口提出する。しばらくして、先に提出した申請書「Application for Driving Permit」と別に「Driving Certificate」の用紙が渡され、「Permit Transaction」の窓口提出すると免許番号が登録される。200T.T. ドルを「Casher」で支払い、その領収書と「Driving Certificate」の用紙を持って、免許証交付室に提出する。免許証添付用の写真撮影が行われ、免許証が交付され、終了する。

上記一連の手続を行うためには待ち時間が非常に長いので筆記試験は午前の早い時間に行くことが望ましい。

当国で新規に免許証を取得する場合は、あらかじめ法規 (安全運転のしおりを売っている) の試験を受ける。その合格者は運転学校へ入り、路上練習だけで取得できる。費用は、練習 1 回 30T.T. ドルで、15~20 回ほどでとれる。

学校は何ヵ所もあり、電話帳で調べればよい。

(6) 保険、税金

自動車保険には、総合と相手車の補償だけとがある。しかし、いずれも限度額があり、また細かい規定が設けられている。

保険会社は多数あり、それらの協定 (T.&T. Automobile Association) もある。

この協会に加入していると、加入会社の保険料は割引される。主な保険会社は次のとおりである。

American Life & General Insurance Co. (Trinidad) Ltd. (ALGICO)

所在地：33 Pembroke St., Port of Spain

TEL：623-8891

Trinidad & Tobago Insurance Ltd. (TATIL)

所在地：11 Maraval Rd., Port of Spain

TEL：622-5351~8

Gulf Insurance Ltd. (GIT)

所在地：104, Woodford St., Newtown, Port of Spain

TEL：622-7485

保険料は会社や種類により多少違うが、GITで、1,600ccの新車 (11万7,000T.T. ドル評価) で保険料は9,000T.T. ドル余りである。

自動車税（登録税）は毎年初めに払い、フロントガラス標示のステッカーを更新する。外交官や公用車の無税はEマーク、一般はPマーク、貨物はG、タクシーはHで、年により色が違い、西暦が入っている。

これは通知も何もこないなので、年がかわったら交通部へ自分で払いに行かねばならない。3月以降になって古いステッカーをつけて未払いだとわかると、警察の取締りの対象になり、罰金をとられる。

16. 社 交

16-1 風俗習慣

イギリスの植民地であったため、イギリス(西欧)的な社交上の風俗習慣がある。日本人は、そういうものにあまり慣れていない。日本の宴会とはまったく違う形で、夫婦同伴、子供は入れないパーティが、当地の人達あるいは外国人、あるいは日本人同士で行なわれる。ホテルやレストランが使われる場合もあるが、これは大規模のもので、多くは数家族を招いて家庭で集まりを催すことが最高のもてなしである。夜11時すぎまでの3~4時間は、飲んだり食べたり、おしゃべりを楽しむ。

クリスマスやカーニバルのシーズン、また結婚披露の時など、家庭で大規模な、楽団も入ったドンチャン騒ぎもある。

16-2 パーティでの留意点

招待状が出され、服装が指定される場合もあるが、多くはカジュアルである。小規模で、一般的には電話など口頭連絡で呼んだり呼ばれたりする。

呼ばれた場合は、極力、都合をつけて出席するようにし、もし不都合の場合は、理由をはっきりのべて断わるのがよい。こういう機会は情報交換、相互理解を深める貴重な場である。

トリニダード・トバゴは、在留邦人の数も少ないので日本人相互の交流や理解も深い。いろいろなことを勉強する貴重な機会でもあり、パーティに呼ぶ方はもちろん、呼ばれる方も集まりを楽しく有意義にするための努力は必要である。

マナーは、一般常識でいわれていることを守ればよいのであって、特にむずかしいことはない。しかし、女性優先であり、外国人の女性に対する配慮は日本人にとっては目をみはらされるものがある。

大人のパーティには、子供を出席させないのが原則である。したがって、子供が小さい人は、ベビーシッターを頼まなければならない。ベビーシッターの料金は、子供の年齢や時刻によって違うが、1時間20~50T.T.ドルである。食事付きか否か、送り迎えなど条件によっても違う。節句や誕生祝いなど子供だけの集まりが持たれる場合もある。

16-3 来客時の留意点

客を迎えるにあたっては、それなりの準備をしなければならない。自分の条件に合わせた最高のもてなしをする努力が必要である。

16-4 訪問時の留意点

定刻より数分遅れて訪問するのが、招いた人への配慮である。周囲に迷惑をかける駐車をすること。あいさつは日本人同士の場合は言葉をかけ、おじぎをするだけだが、外国人との場合は握手や親しければ頬キス、抱擁もする。

手土産は、時と場合によるが、クリスマスや結婚披露の時は、カードをつけたプレゼントを持参する。気持ちの表現を態度、言葉、物で表わすということで、訪問者の気持ちの問題である。一方、呼ばれたり、呼んだりという相互関係もある。

服装はふだん着から正装まであり、判断はその人なりのものであるが、場違いなものは避けたい。

退席の時刻は、自分の都合で判断、決定してよいが、楽しければ長尻になるのはやむを得ない。もし上下関係があれば目上の人から、また遠い人が先にということはあるが、滞在3～4時間、夜は11時頃までがふつうである。

16-5 禁止されている言動

特に禁止されているものはないが、宗教信仰上のこと、民族（アフリカ系、インド系、中国系、その他）批判はしない方がよい。そのほかは、常識の範囲内で対処する。

17. 任国官公庁

大統領のもとに立法、行政、司法が分立し、行政は以下のとおり 19 省がある、
執務時間は、午前が 8:00~12:00、午後は 1:00~4:00 である。

- (1) 法務省 Ministry of Legal Affairs
- (2) 外務省 Ministry of Foreign Affairs
- (3) 国家安全保証省 Ministry of National Security
- (4) 大蔵・観光省 Ministry of Finance and Tourism
- (5) 農業・土地・海洋資源省 Ministry of Agriculture, Lands and Marine Resource
- (6) 公共事業・運輸省 Ministry of Works and Transport
- (7) 住宅・居住省 Ministry of Housing and Settlement
- (8) 広報・情報省 Ministry of Public Administration and Information
- (9) 教育省 Ministry of Education
- (10) 保健省 Ministry of Health
- (11) 計画・開発省 Ministry of Planning and Development
- (12) 貿易・産業・消費者関係省 Ministry of Trade and Industry and Consumer Affairs
- (13) 労働・共同組合省 Ministry of Labour and Cooperative
- (14) 公益事業省 Ministry of Public Utilities
- (15) エネルギー・エネルギー産業省 Ministry of Energy and Energy Industry
- (16) 社会開発省 Ministry of Social Development
- (17) スポーツ・青年関係省 Ministry of Sports and Youth Affairs
- (18) コミュニティ開発省 Ministry of Community Development
- (19) 地方政府省 Ministry of Local Government

18. 在外日本関係機関など

東カリブ7ヵ国（アンティグア、グレナダ、セント・ヴィンセント、セント・クリストファー・ネイヴィース、セント・ルシア、ドミニカ、バルバドス）を兼轄する日本大使館だけである。執務時間は、任国官公庁と同じである。

在トリニダッド・トバゴ日本大使館

住所 16 Queen's Park West, Port of Spain, Trinidad and Tobago, W.I. (P.O. Box 1039)

電話 622-5838, 622-6105

FAX 622-0858

19. 地方都市

地方都市としては、アリマ（旧スペイン植民地時代の首都）、サングレ・グランデ（スペイン時代の東部主要都市、地域経済、行政の中心地）、サン・フェルナンド（南西部商工業、行政の中心地）などがある。トバゴ島にはスコアボロー（行政・商工業の中心地）がある。

任国情報をご利用の皆様へ

この任国情報は政府間技術協力のために開発途上国へ赴任するJICA派遣専門家およびJICA役職員等が任国への入国および滞在するために必要とされる情報、とくに生活情報を提供するものです。

専門家およびJICA役職員等は、技術協力協定や要請文書などの国際約束により、税金の免除等一定の義務が免除されるなどの特別の条件が付与されています。

本情報は、これらの条件に基づいたものであることを、あらかじめご了解願います。

-----アジア地域-----

1. バングラデシュ
2. ブータン
3. ブルネイ
4. カンボディア
5. 中華人民共和国
6. インド
7. インドネシア (ジャカルタ、バンドン、
ジョグジャカルタ、メダン)
8. 大韓民国
9. ラオス
10. マレーシア
11. ミャンマー
12. ネパール
13. パキスタン
14. フィリピン
15. シンガポール
16. スリ・ランカ
17. タイ (バンコク、チェンマイ、コンケン)
18. ヴィエトナム
19. モンゴル

-----中近東地域-----

1. アルジェリア
2. バハレーン
3. エジプト
4. イラン
5. ジョルダン
6. クウェイト
7. モロッコ
8. オマーン
9. カタル
10. サウディ・アラビア
11. スーダン
12. シリア
13. テュニジア
14. トルコ (アンカラ、イスタンブール)
15. アラブ首長国連邦 (ドバイ、アブダビ、アマン)
16. イエメン (サナ)

-----太平洋地域-----

1. フィジー
2. キリバス
3. ミクロネシア
4. バラオ
5. パプア・ニューギニア
6. ソロモン諸島
7. ヴァヌアツ
8. 西サモア
9. トンガ
10. マーシャル諸島

-----欧州地域-----

1. カザフスタン
2. キルギスタン
3. ポーランド
4. タジキスタン
5. トルクメニスタン
6. ウズベキスタン
7. ハンガリー
8. ブルガリア

-----アフリカ地域-----

1. ベナン
2. ブルンディ
3. カメルーン
4. カーボ・ヴェルデ
5. コモロ
6. エチオピア
7. ガンビア
8. ガーナ
9. ギニア
10. ギニア・ビサオ
11. コートジボアール
12. ケニア
13. リベリア
14. マダガスカル (アンタナナリボ、ディエゴ・スアレ)
15. マラウイ
16. モーリシャス
17. モザンビーク
18. ニジェール
19. ナイジェリア
20. ルワンダ
21. サントメ・プリンシペ
22. セネガル
23. セイシェル
24. ソマリア
25. タンザニア (ダルエスサラーム、ザンジバル)
26. トーゴ
27. ザール
28. ザンビア
29. ジンバブエ
30. スワジランド
31. ボツワナ

-----中南米地域-----

1. アルゼンティン
2. ボリヴィア (ラ・パス、サンタクルス)
3. ブラジル (ブラジリア、サンパウロ、リオデジャネイロ、
ポルトアレグレ、ベレーン)
4. チリ
5. コロンビア
6. コスタ・リカ
7. ドミニカ共和国
8. エクアドル
9. グレナダ
10. グアテマラ
11. ホンデュラス
12. メキシコ
13. パナマ
14. パラグアイ (アスンシオン、エンカルナシオン)
15. ペルー
16. セント・ルシア
17. トリニダッド・トバゴ
18. ウルグアイ
19. ヴェネズエラ
20. ニカラグア

「任国情報（トリニダッド・トバゴ）1996年版」

平成8年3月20日発行

編集・発行所 国際協力事業団 国際協力総合研修所

〒162 東京都新宿区市谷本村町10番5号

電話 (03) 3269-2357

編集協力 財団法人 日本国際協力センター

